

平成20年度(5)

# 県政モニター アンケート報告書

テーマ「土地利用対策」

平成21年 3 月

# も く じ

調査の概要 .....	1
-------------	---

## 調査結果

1 地域の土地利用状況 .....	3
2 市街地での低未利用地のあり方 .....	7
3 土地利用の混在化 .....	9
4 土地利用規制 .....	10
5 環境に配慮した土地利用 .....	11
6 景観の保全 .....	13
7 都市基盤の整備 .....	16
8 まちづくり計画への参加 .....	17
9 地域づくりへの取組み .....	18
10 今後の土地利用 .....	24
11 自由意見 .....	30

質問と回答 .....	36
-------------	----

# I 調査の概要

## 1 調査のテーマ

土地利用対策

## 2 調査の趣旨

本県では、県土の総合的かつ計画的な土地利用を図るため、平成10年に愛知県国土利用計画を策定し、その運用に努めているところですが、市街地における低未利用地の増加や郊外での農地と宅地の混在など、必ずしも計画的な土地利用が進められているとは言えない状況にあります。

また、自然環境の保全に対する県民意識の高まりや農地や森林の持つ県土保全機能の再評価等、土地利用に関する人々の意識は、この10年間の間に大きく変わってきていると思われます。

そこで、今回のアンケートは、県土利用の基本的指針となる愛知県国土利用計画を改定するにあたり、県民の皆様の意見を反映させる取組みの一つとして、県政モニターの皆様にご意見をお聞きしました。

## 3 調査対象

県政モニター 496人 (平成20年12月15日現在)

内訳

区 分	計		名古屋地域	尾張地域	三河地域	
	人 員	構 成 比				
総 数	496人	100.0%	153人	189人	154人	
性 別	男 性	241	48.6	75	91	75
	女 性	255	51.4	78	98	79
年 代 別	20 代	74	14.9	21	27	26
	30 代	109	22.0	32	44	33
	40 代	83	16.7	28	30	25
	50 代	78	15.7	24	29	25
	60 代 以上	152	30.7	48	59	45

## 4 調査期間

平成20年12月16日から平成21年1月12日まで

## 5 調査方法

郵送・インターネット

## 6 回答者数

474人（回収率95.6%）

### 記号・符号・用語の説明

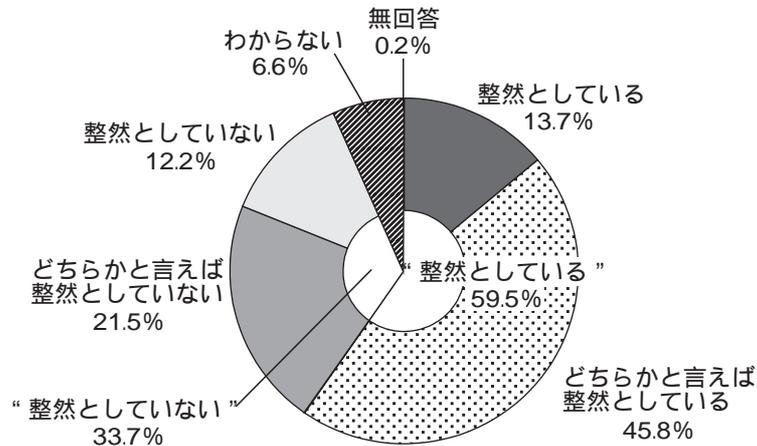
- (1) N (Number of Cases の略) は比例算出の基数であり、100%が何人の回答者に相当するかを示す。
- (2) M.T.(Multiple Total) は複数回答を認める質問に対する回答の比率の合計を示す。(無回答者の数値は含まない。)
- (3) ( - ) は該当数値のないことを示す。

## II 調査結果

### 1 地域の土地利用状況

問1 あなたが住んでいる地域の土地利用状況について、どのように思いますか。(回答は1つ)

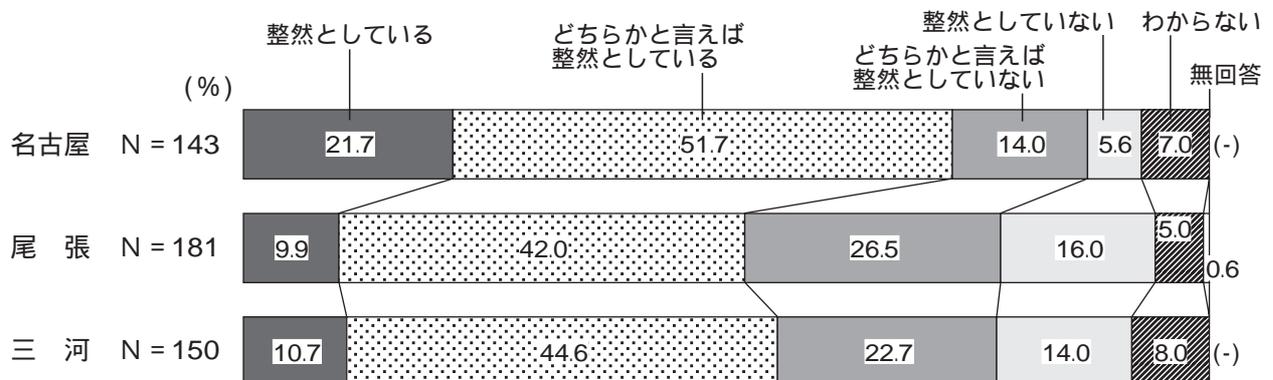
N = 474



住んでいる地域の土地利用状況について、どのように思うかを尋ねたところ、「整然としている」13.7%、「どちらかと言えば整然としている」45.8%で、合わせた“整然としている”が59.5%に対し、「どちらかと言えば整然としていない」21.5%、「整然としていない」12.2%で、合わせた“整然としていない”は33.7%となっている。

地域別でみると、「整然としている」と答えた人の割合は名古屋地域が最も高く、「どちらかと言えば整然としている」を合わせた“整然としている”と答えた人の割合は、名古屋地域では73.4%に達している。

(地域別)



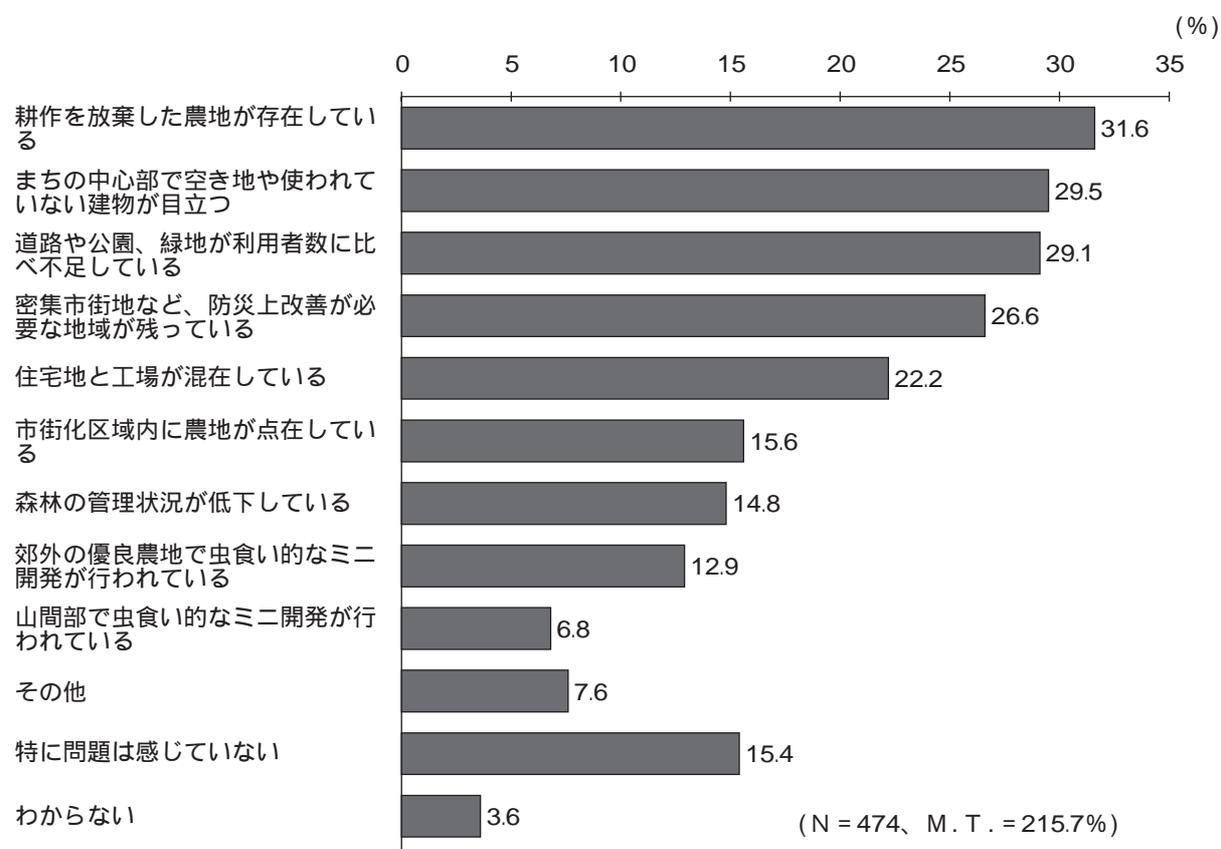
この質問は、平成 8 年にも実施していますが、当時は、県全体で「整然としている」が5.9%、「どちらかと言えば整然としている」が41.0%で、合わせて46.9%となっていました。今回の調査では、「整然としている」が13.7%、「どちらかと言えば整然としている」が45.8%で、合わせて59.5%となりました。

本県では、土地利用基本計画などの適正な運用により、住宅地、商業地、工業地などの計画的な整備を進めており、今後とも良好な住環境の維持・促進に努めてまいりたいと思います。

(地域振興部土地水資源課)

問2 あなたが住んでいる市区町村の土地利用状況について、問題を感じていることは何ですか。

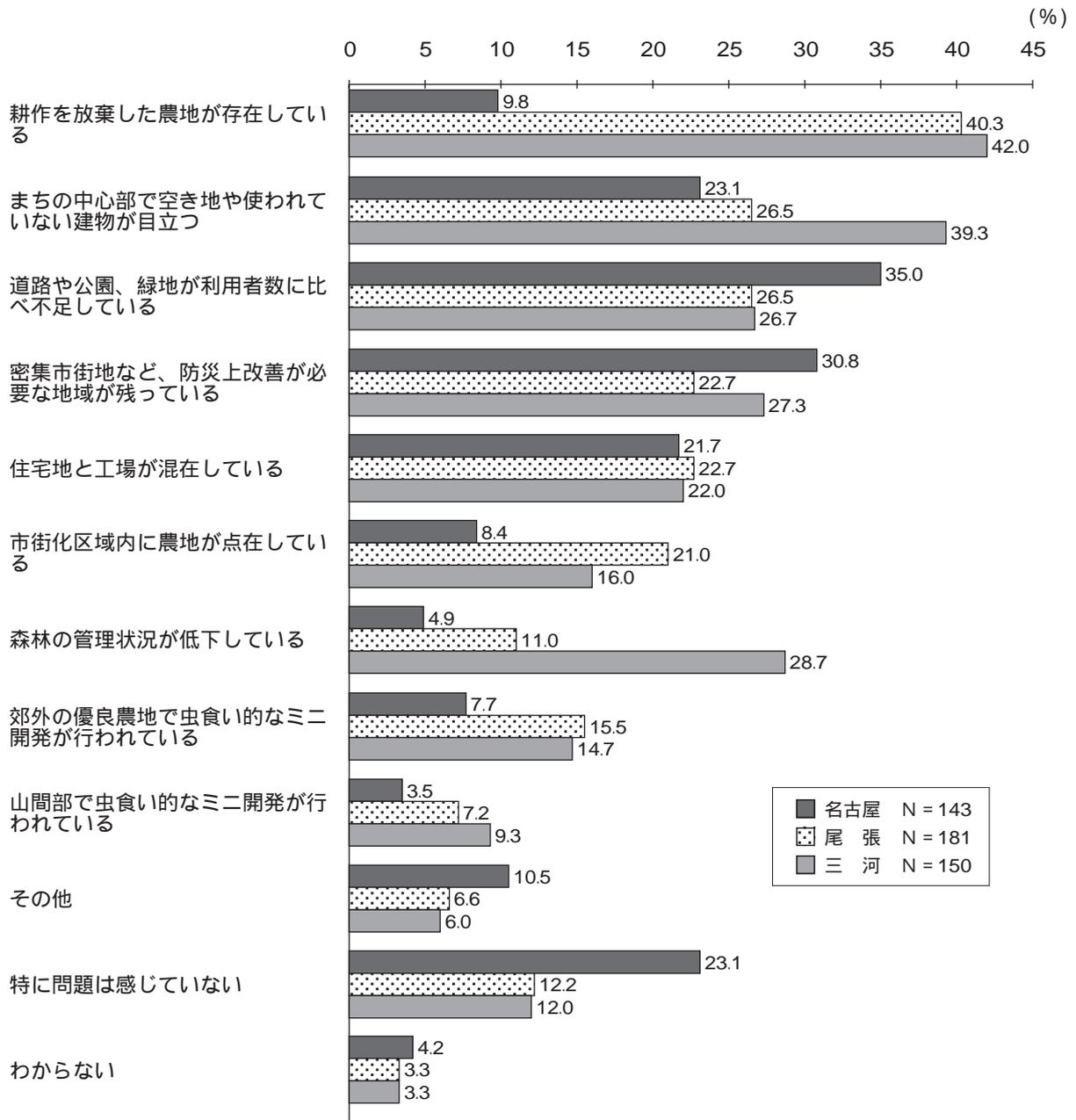
(回答はいくつでも)



住んでいる市区町村の土地利用状況について、問題を感じていることは何かを尋ねたところ、「耕作を放棄した農地が存在している」が31.6%、「まちの中心部で空き地や使われていない建物が目立つ」が29.5%、「道路や公園、緑地が利用者数に比べ不足している」が29.1%、「密集市街地など、防災上改善が必要な地域が残っている」が26.6%などとなっている。

地域別にみると、尾張地域と三河地域では「耕作を放棄した農地が存在している」と答えた人の割合が最も高く、名古屋地域では「道路や公園、緑地が利用者数に比べ不足している」と答えた人の割合が最も高くなっている。

(地域別)



自由意見においても、耕作放棄農地の問題を指摘する方が多く見えました。食の安心・安全に対する意識の高まりや食料自給率の低下に対する危機意識が、身近な農地の保全や有効活用に対する関心を高めているのではないかと考えられます。

全国的にも、輸入農作物との競合や農業従事者の高齢化等による作付面積の減少（耕地利用率の低下）や農家・農業従事者の減少（担い手の減少）などにより、耕作放棄地等が増加しています。

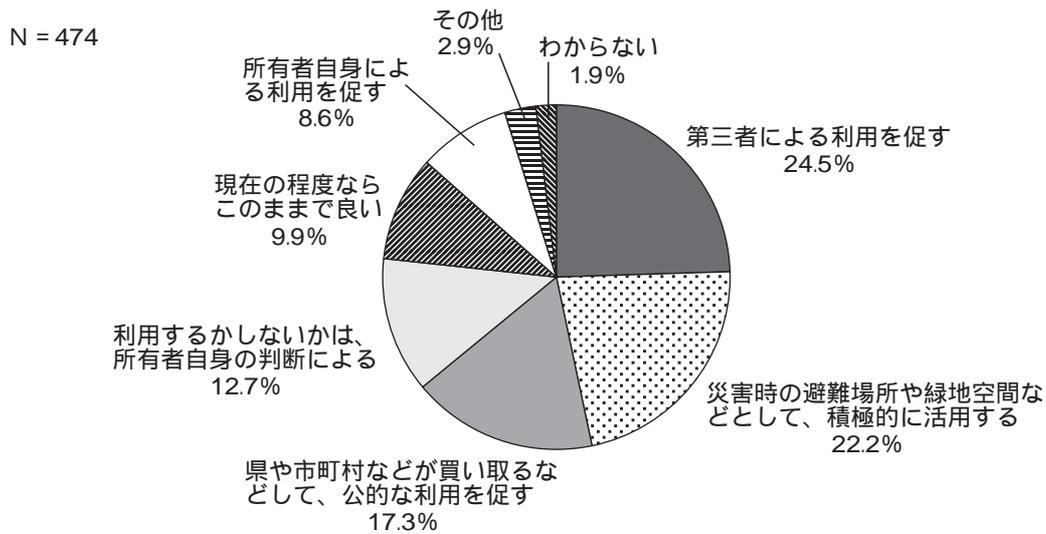
(「土地白書」平成19年度土地の動向に関する年次報告)

(地域振興部土地水資源課)

## 2 市街地での低未利用地のあり方

問3 近年、住宅地や商業地などの市街地において、虫食い状の空き地や空き家、空き店舗が増えていると言われています。

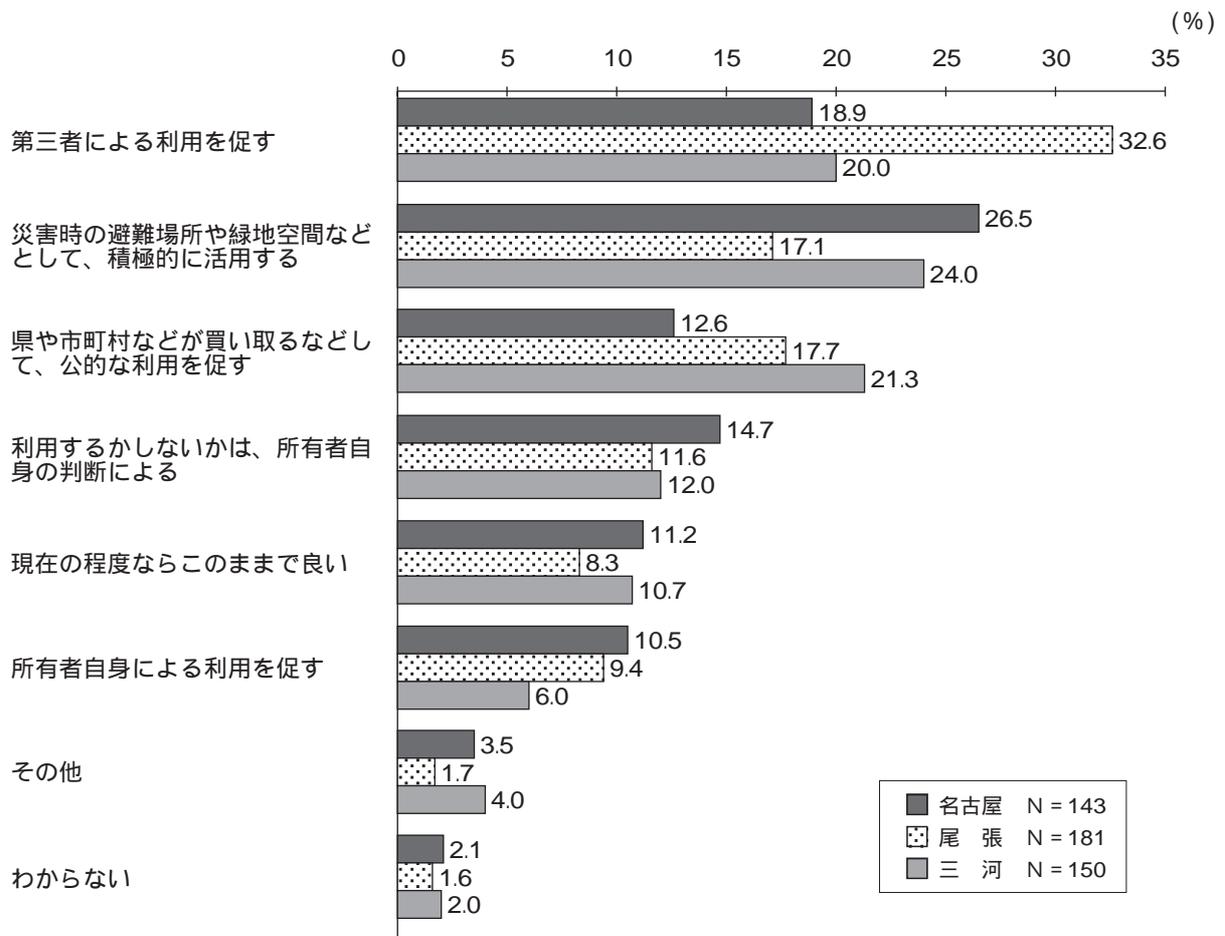
このことについて、市街地での低未利用地（利用されていない土地、又は土地の立地条件に対して利用形態が社会的に必ずしも適切でないもの）について、あなたはどのようにすれば良いと思いますか。（回答は1つ）



市街地での低未利用地について、どのようにすれば良いと思うかを尋ねたところ、「第三者による利用を促す」が24.5%、「災害時の避難場所や緑地空間などとして、積極的に活用する」が22.2%、「県や市町村などが買い取るなどとして、公的な利用を促す」が17.3%、「利用するかしないかは、所有者自身の判断による」が12.7%などとなっている。

地域別にみると、尾張地域では「第三者による利用を促す」と答えた人の割合が最も高く、名古屋地域と三河地域では「災害時の避難場所や緑地空間などとして、積極的に活用する」と答えた人の割合が最も高くなっている。

(地域別)



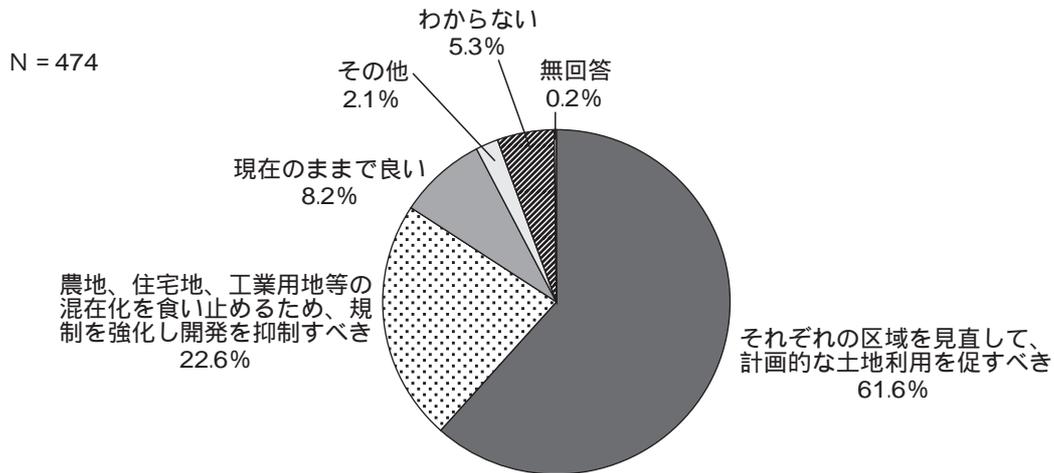
市街地における低未利用地について、「第三者による利用を促す」、「災害時の避難場所や緑地として積極的に活用する」、「公的な利用を促す」が64.0%となり、何らかの方法で活用した方が良いと考えてみえる方が多いと感じました。

都市部における人口や世帯数の減少が本格化するにつれ、周辺部を中心に管理の行き届かない空き家や空き地が増加する傾向にあり、総住宅数が総世帯数を上回る状況の中で、居住世帯のいない住宅（空き家）が、全国で総住宅数の12.2%を占め、増加傾向を示しています。また、宅地における空き地発生の推移をみると、平成15年時点において全国で約13万haの空き地が発生しており、平成10年と比べその面積は増加しています。（「土地白書」平成19年度土地の動向に関する年次報告）  
 (地域振興部土地水資源課)

### 3 土地利用の混在化

問4 市街化を抑制することとなっている地域（市街化調整区域）において、開発が進んだ結果、農地や住宅地、工業用地等の事業用地が混在化し、農業を営む上での支障や道路などの生活関連施設の未整備が問題となっています。このことについて、あなたはどのように思いますか。

（回答は1つ）



市街化調整区域において、開発が進んだ結果、農業を営む上での支障や道路などの生活関連施設の未整備が問題となっていることについてどのように思うか尋ねたところ、「それぞれの区域を見直して、計画的な土地利用を促すべき」が61.6%、「農地、住宅地、工業用地等の混在化を食い止めるため、規制を強化し開発を抑制すべき」が22.6%に対し、「現在のままで良い」は8.2%となっている。

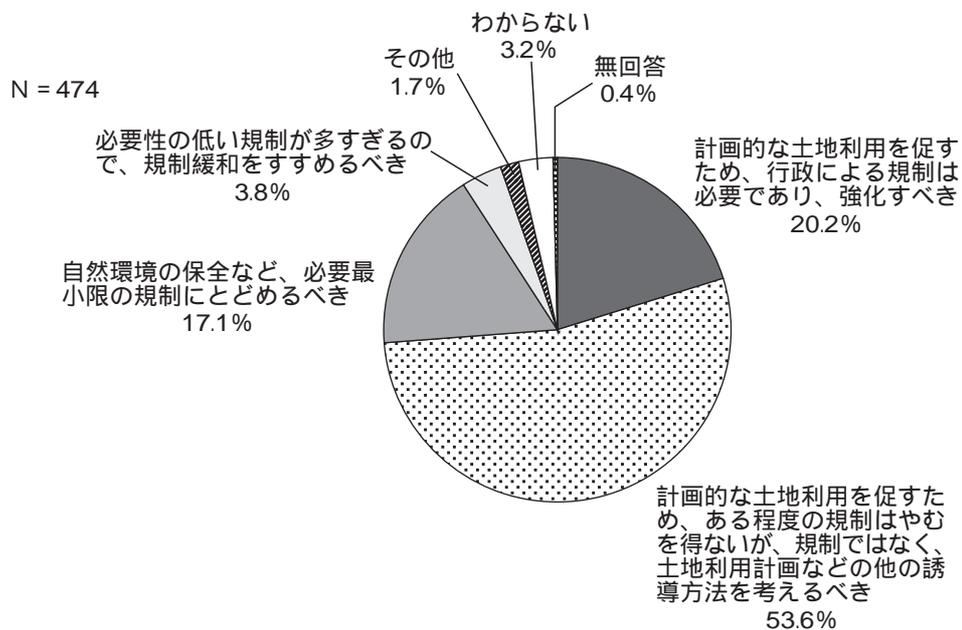
市街化調整区域における開発が進んだ結果、農地、住宅地、工業地などの土地利用の混在化が生じている問題については、「計画的な土地利用を促すべき」と「規制を強化し開発を抑制すべき」を合わせて84.2%となり、この問題に対する意識の高さがよくわかります。

近年、都市計画法等の改正により、大規模集客施設の郊外への立地規制や開発許可制度の見直しが行われ、都市機能の無秩序な拡散防止に向けた制度が整備されてきています。

（地域振興部土地水資源課）

## 4 土地利用規制

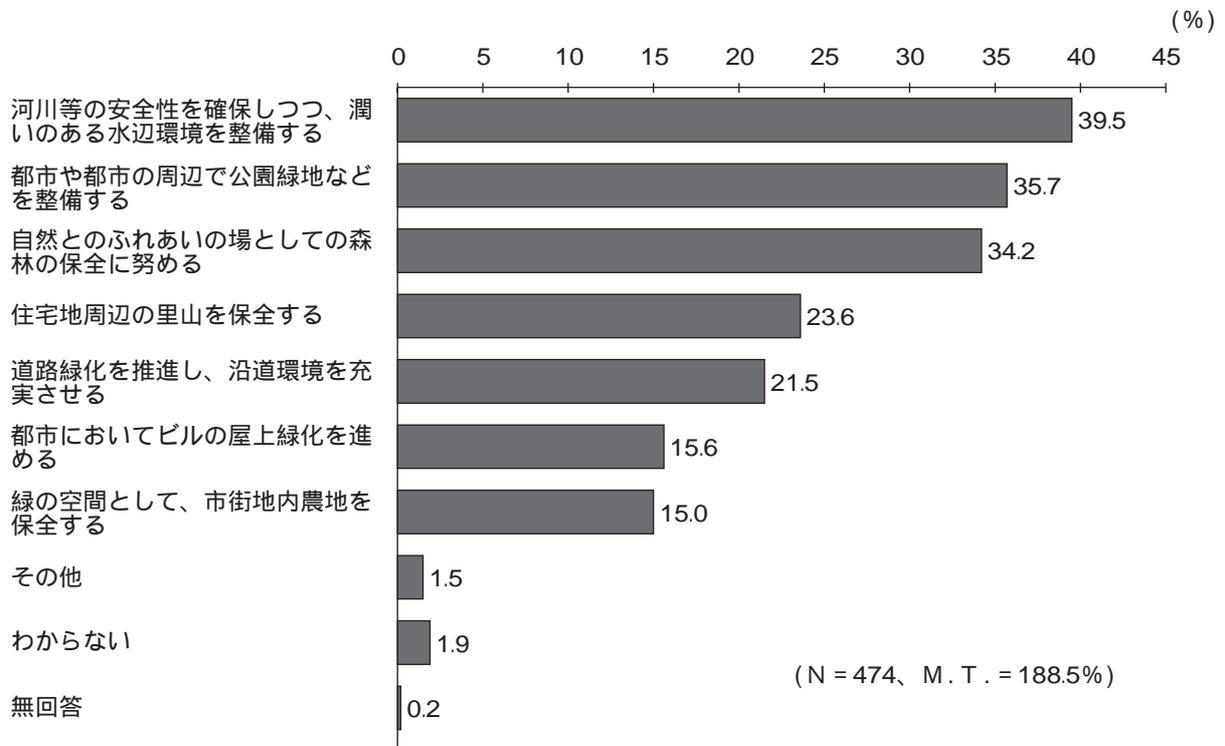
問5 農地や森林を開発し利用しようとする場合、土地の開発や利用に対して、様々な法律や条例により規制がかけられていることがあります。これらの土地利用規制について、あなたはどのように思いますか。(回答は1つ)



農地や森林を開発し利用しようとする場合にかけられることがある土地利用規制について、どのように思うかを尋ねたところ、「計画的な土地利用を促すため、行政による規制は必要であり、強化すべき」が20.2%、「計画的な土地利用を促すため、ある程度の規制はやむを得ないが、規制ではなく、土地利用計画などの他の誘導方法を考えるべき」が53.6%、「自然環境の保全など、必要最小限の規制にとどめるべき」が17.1%、「必要性の低い規制が多すぎるので、規制緩和をすすめるべき」が3.8%となっている。

## 5 環境に配慮した土地利用

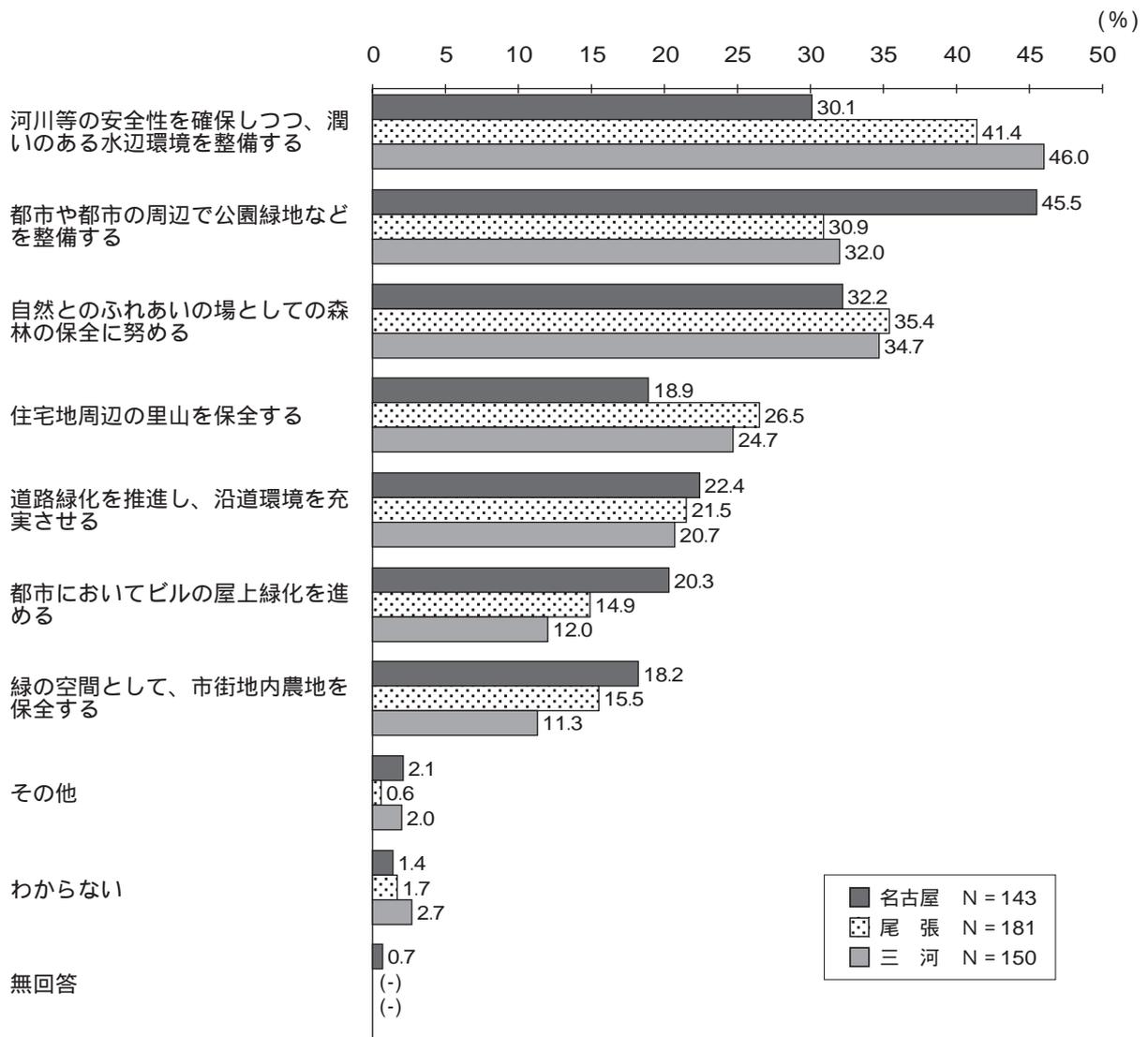
問6 土地の利用にあたっては、快適な環境づくりに配慮する必要がありますが、今後、どのようなことに配慮したら良いと思いますか。(回答は2つ以内)



土地の利用にあたり、快適な環境づくりのためにどのようなことに配慮したら良いかを尋ねたところ、「河川等の安全性を確保しつつ、潤いのある水辺環境を整備する」が39.5%、「都市や都市の周辺で公園緑地などを整備する」が35.7%、「自然とのふれあいの場としての森林の保全に努める」が34.2%、「住宅地周辺の里山を保全する」が23.6%などとなっている。

地域別にみると、尾張地域と三河地域では「河川等の安全性を確保しつつ、潤いのある水辺環境を整備する」と答えた人の割合が最も高く、名古屋地域では「都市や都市の周辺で公園緑地などを整備する」と答えた人の割合が最も高くなっている。

(地域別)

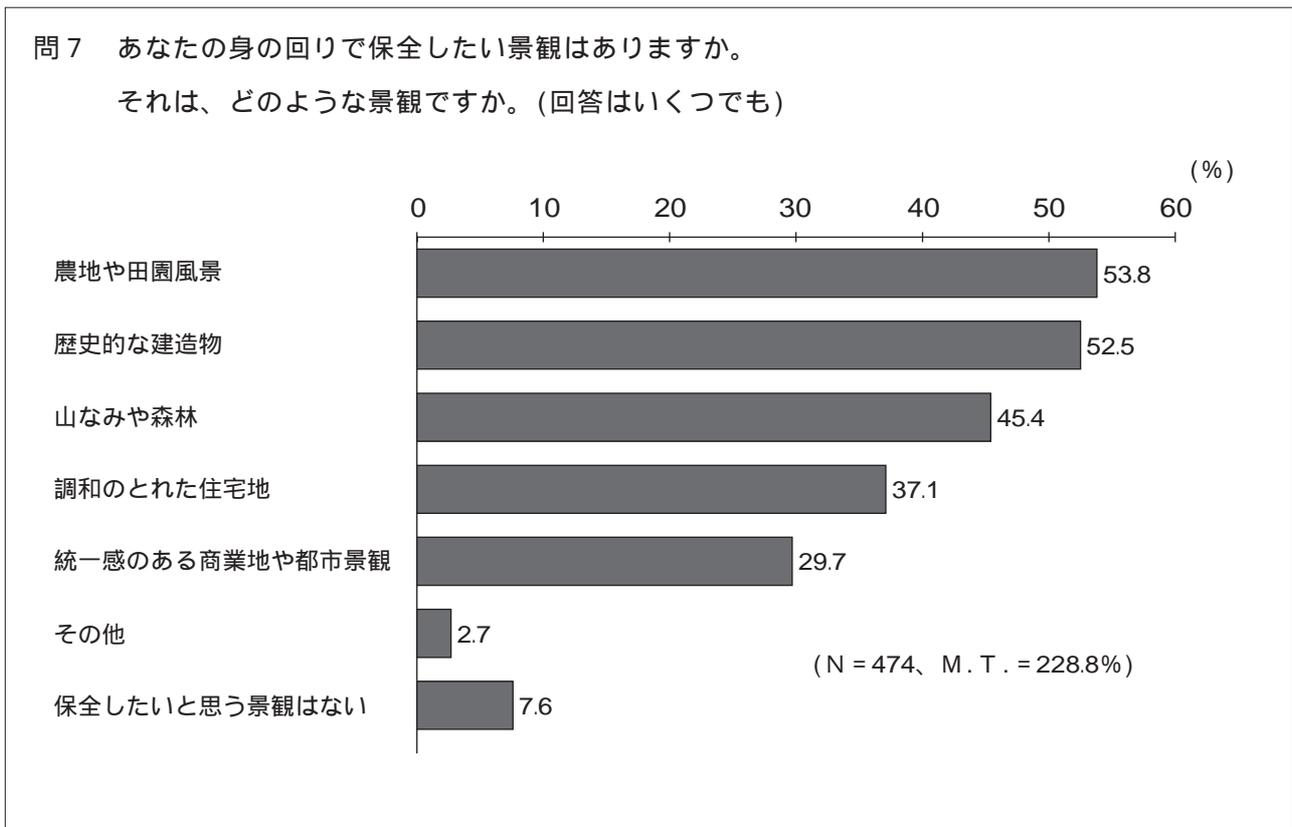


この質問は、平成8年にも実施しており、その結果は、「河川等の安全性を確保しつつ、潤いのある水辺環境を整備する」、「都市や都市の周辺で公園緑地などを整備する」、「自然とのふれあいの場としての森林の保全に努める」が40%以上の支持を得ており、今回の調査結果とほとんど変わりません。

また、平成20年7月に策定された国土利用計画（全国計画）では、「大都市におけるヒートアイランド現象の改善」や「都市における緑地・水面等の効率的な配置」を進め、環境負荷の小さな都市構造の形成を図ることが、良好な生活環境の保全に重要である旨、記述されています。

(地域振興部土地水資源課)

## 6 景観の保全

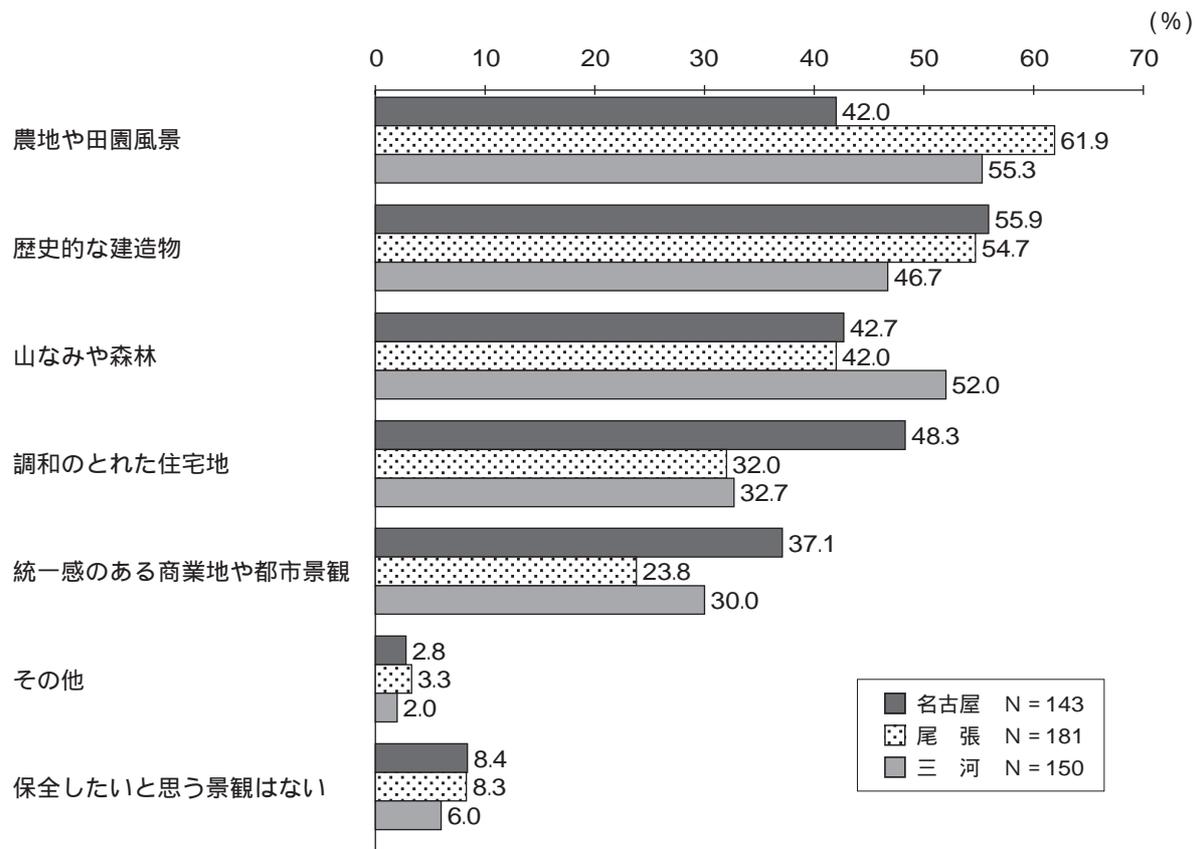


身の回りで保全したい景観はどのような景観かを尋ねたところ、「農地や田園風景」が53.8%、「歴史的な建造物」が52.5%、「山なみや森林」が45.4%、「調和のとれた住宅地」が37.1%などとなっている。

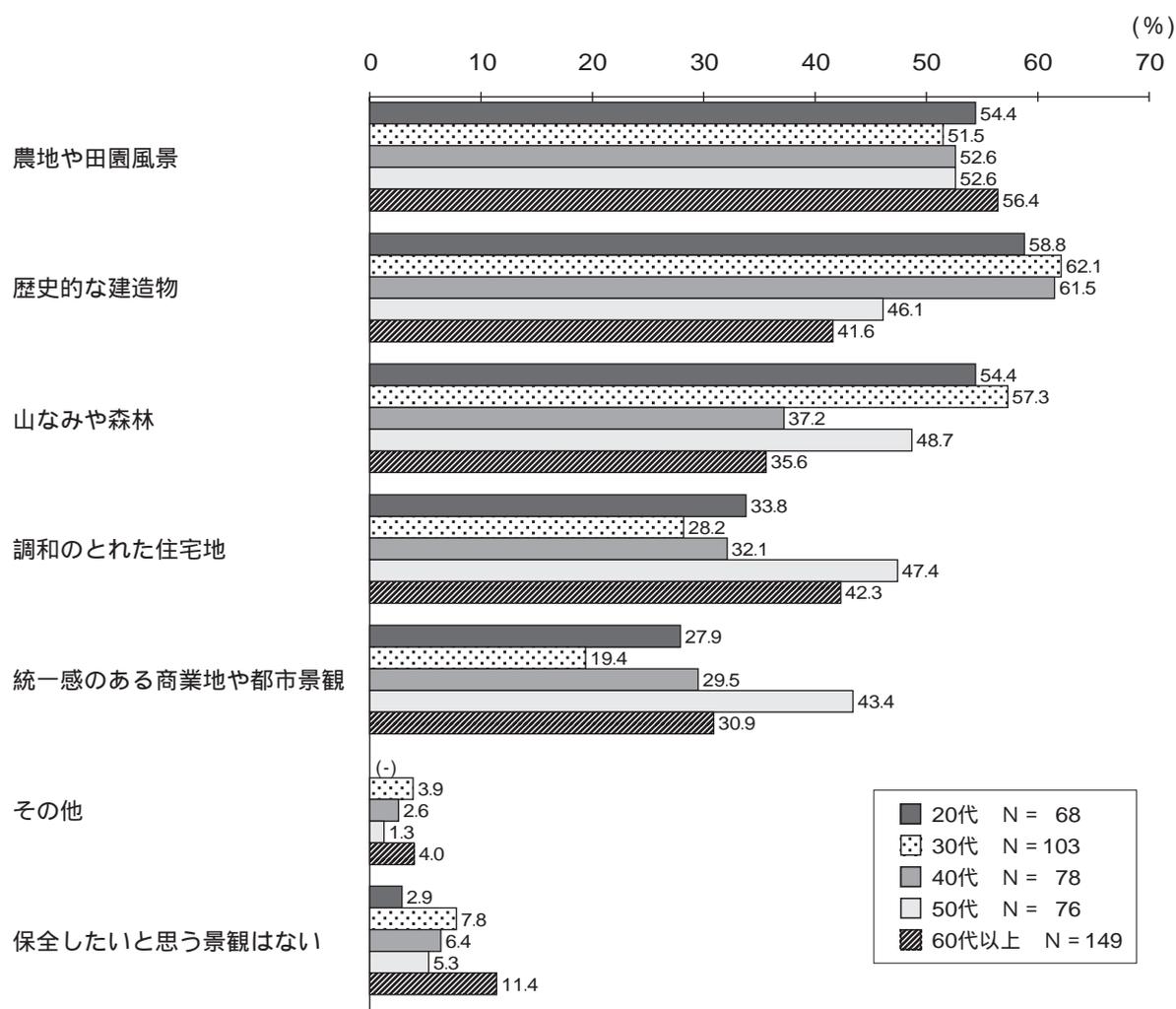
地域別にみると、名古屋地域では、「歴史的な建造物」と答えた人の割合が最も高く、また、「調和のとれた住宅地」、「統一感のある商業地や都市景観」と答えた人の割合が、他地域に比べ高くなっている。また、尾張地域では、「農地や田園風景」と答えた人の割合が最も高く、三河地域では、「山なみや森林」と答えた人の割合が、他地域に比べ高くなっている。

年代別にみると、20代から40代では「歴史的な建造物」と答えた人の割合が最も高く、50代及び60代以上では「農地や田園風景」と答えた人の割合が最も高くなっている。

(地域別)



(年代別)



良好な景観の形成に対する行政の取組みについては、新法である景観法を含む、いわゆる「景観緑三法」が、平成17年6月に全面施行され、本県においては、平成18年3月に景観形成に関する基本的な考え方を「基本方針」として策定するとともに、「美しい愛知づくり条例」を制定しました。

市街地における良好な景観形成のための多様な取り組みを支援するため、この条例に基づき、景観形成に関する施策を総合的かつ計画的に推進していくこととしております。

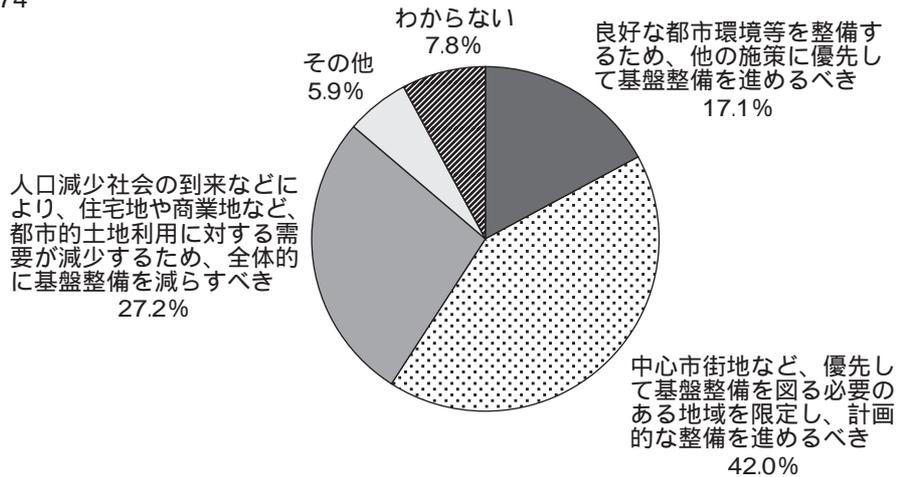
(地域振興部土地水資源課)

## 7 都市基盤の整備

問8 環境に配慮した土地利用の推進、優れた景観の維持、また、市街地における都市機能の高度化によるコンパクトなまちづくりの推進には、道路、公園等の都市基盤の整備が欠かせません。

一方、県や市町村の財政状況は、決して余裕のある状況ではありません。こうした中、都市基盤の整備の進め方について、あなたはどのように思われますか。(回答は1つ)

N = 474



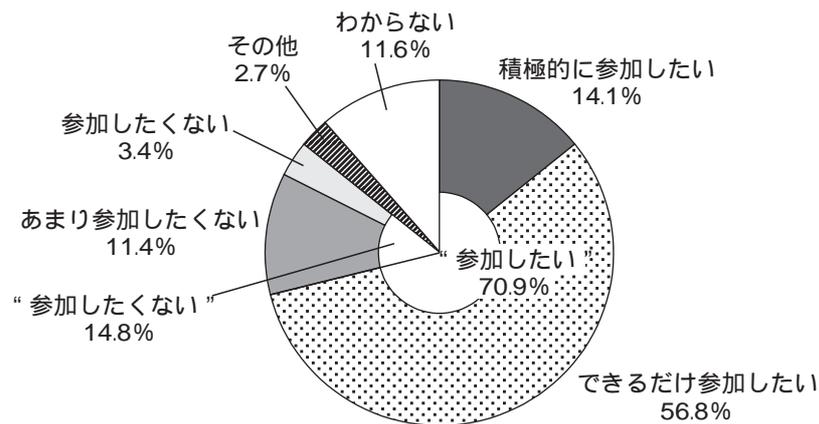
都市基盤の整備の進め方についてどう思うかを尋ねたところ、「良好な都市環境等を整備するため、他の施策に優先して基盤整備を進めるべき」が17.1%、「中心市街地など、優先して基盤整備を図る必要のある地域を限定し、計画的な整備を進めるべき」が42.0%、「人口減少社会の到来などにより、住宅地や商業地など、都市的土地利用に対する需要が減少するため、全体的に基盤整備を減らすべき」が27.2%となっている。

## 8 まちづくり計画への参加

問9 よりよい「まちづくり」を行うためには、土地利用のあり方などを巡る計画づくりの段階から地域住民の参画を進めることが大切です。

あなたが住んでいる地域において、「まちづくり」に関する計画づくりが行われるとしたら、こうした計画づくりに参画したいと思いますか。(回答は1つ)

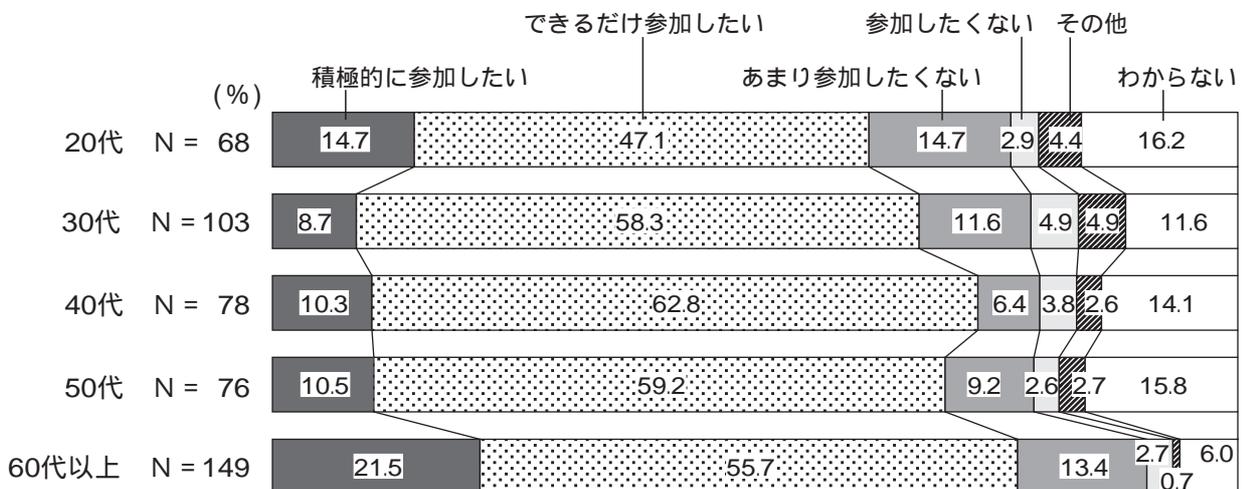
N = 474



住んでいる地域において、「まちづくり」に関する計画づくりが行われるとしたら、こうした計画づくりに参画したいと思うかを尋ねたところ、「積極的に参加したい」14.1%、「できるだけ参加したい」56.8%で、合わせた「参加したい」が70.9%に対し、「あまり参加したくない」11.4%、「参加したくない」3.4%で、合わせた「参加したくない」は14.8%となっている。

年代別にみると、「参加したい」と答えた人の割合は60代以上で、「参加したくない」と答えた人の割合は20代で、それぞれ高くなっている。

(年代別)

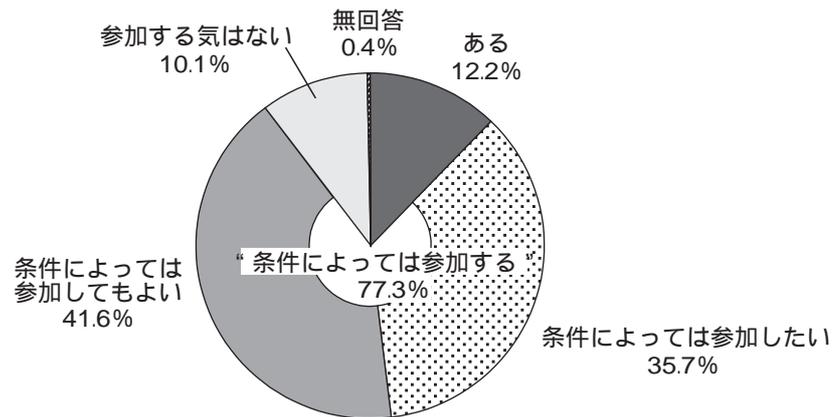


## 9 地域づくりへの取組み

問10 近年、荒れた森林や休耕地の管理、緑あふれる住宅地づくりなど、地域の住民が主体となって、国土をより良い状態で次世代へ引継ごうという活動が数多く見られるようになってきました。

そこで、お伺いします。あなたは、「荒れた森林や休耕地の管理」について、地域に暮らす住民として、これらの地域づくりに参加する意向はありますか。(回答は1つ)

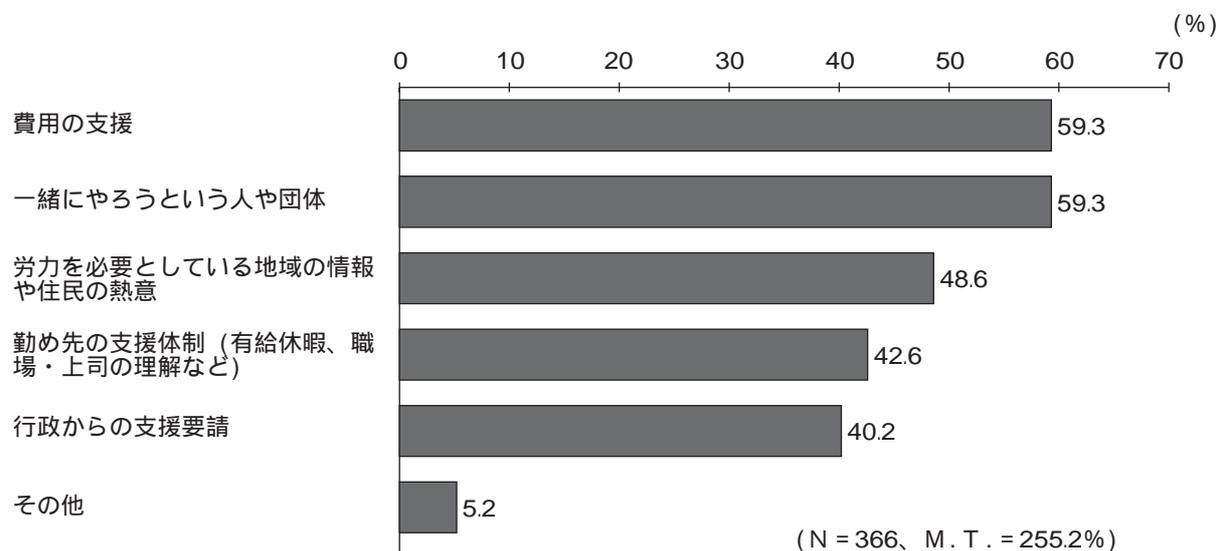
N = 474



「荒れた森林や休耕地の管理」について、地域に暮らす住民として、これらの地域づくりに参加する意向があるかを尋ねたところ、「ある」が12.2%、「条件によっては参加したい」35.7%、「条件によっては参加してもよい」41.6%で、合わせた“条件によっては参加する”が77.3%に対して、「参加する気はない」は10.1%となっている。

問11 問10で、「2 条件によっては参加したい」または「3 条件によっては参加してもよい」とお答えの方にお伺いします。

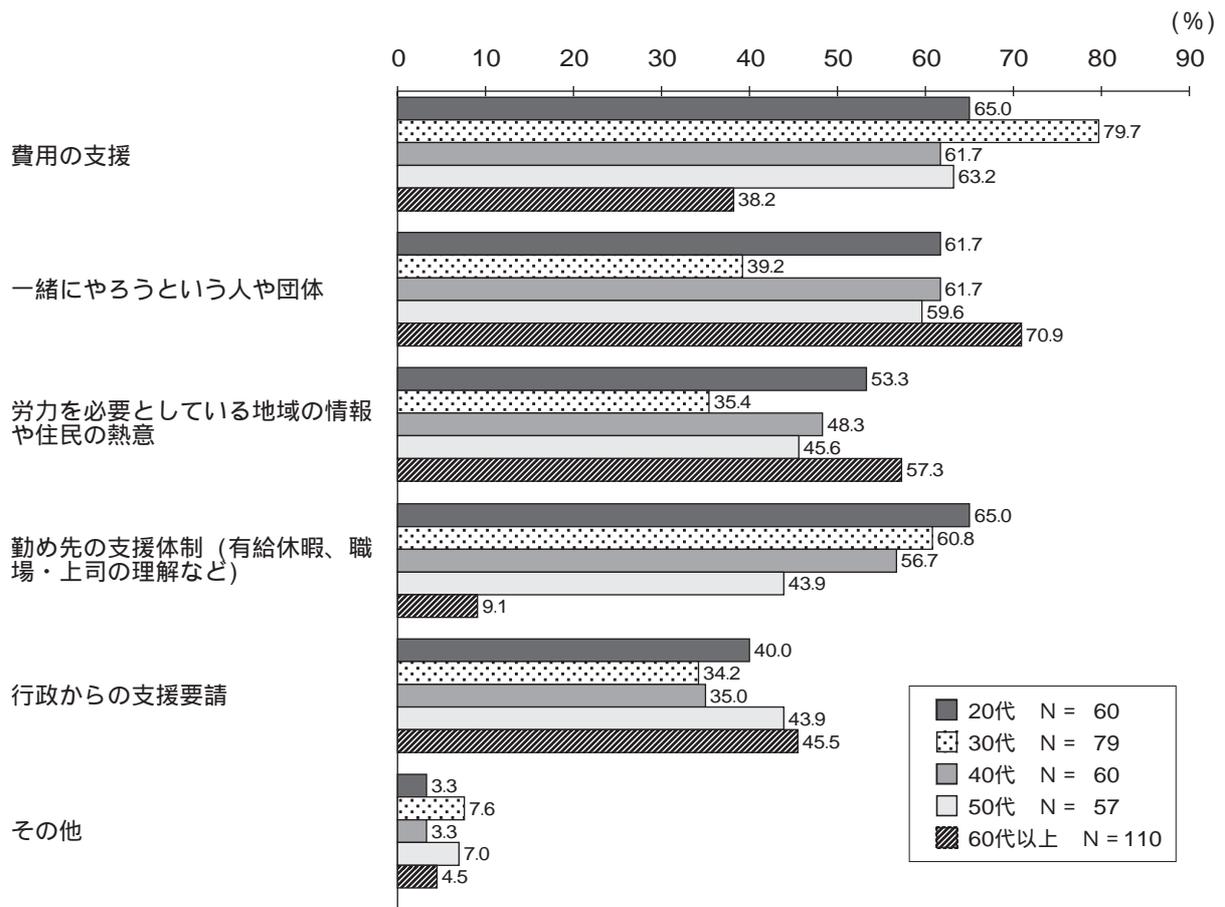
どのような条件がそろえば参加したい(参加してもよい)ですか。(回答はいくつでも)



問10で、“条件によっては参加する”と答え人に、どのような条件がそろえば参加するかを尋ねたところ、「費用の支援」と「一緒にやろうという人や団体」が59.3%、「労力を必要としている地域の情報や住民の熱意」が48.6%、「勤め先の支援体制 (有給休暇、職場・上司の理解など)」が42.6%などとなっている。

年代別にみると、「費用の支援」と答えた人の割合は30代で、「一緒にやろうという人や団体」は60代以上で、それぞれ高くなっている。

(年代別)

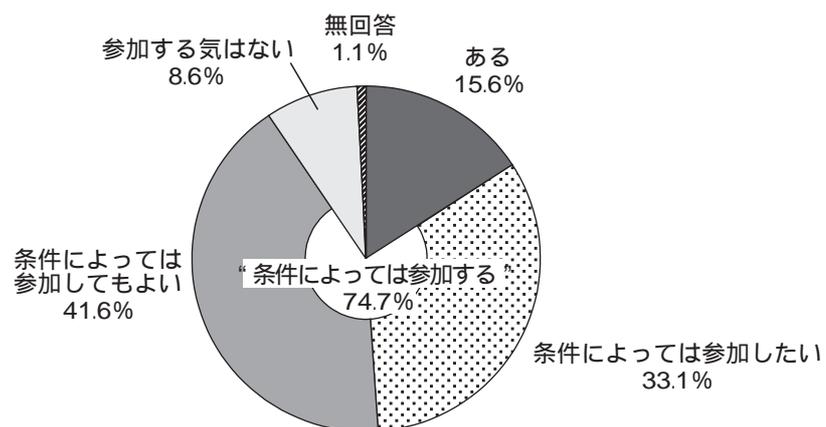


問12 問10と同じ主旨の質問です。

近年、地域の公園や道路の管理など、地域の住民が主体となって、緑あふれる快適な住宅地づくりを進めていこうといった活動が数多く見られるようになってきました。

そこで、お伺いします。あなたは、「公園や道路の管理」について、地域に暮らす住民として、これらの地域づくりに参加する意向はありますか。(回答は1つ)

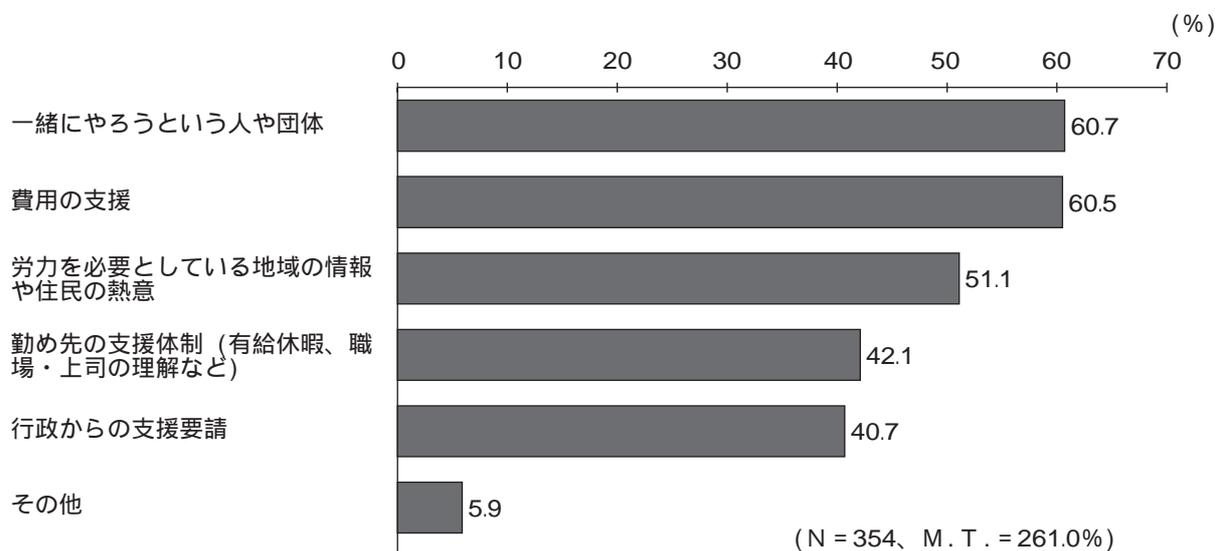
N = 474



「公園や道路の管理」について、地域に暮らす住民として、これらの地域づくりに参加する意向はあるかを尋ねたところ、「ある」が15.6%、「条件によっては参加したい」33.1%、「条件によっては参加してもよい」41.6%で、合わせた“条件によっては参加する”が74.7%に対し、「参加する気はない」は8.6%となっている。

問13 問12で、「2 条件によっては参加したい」または「3 条件によっては参加してもよい」とお答えの方にお伺いします。

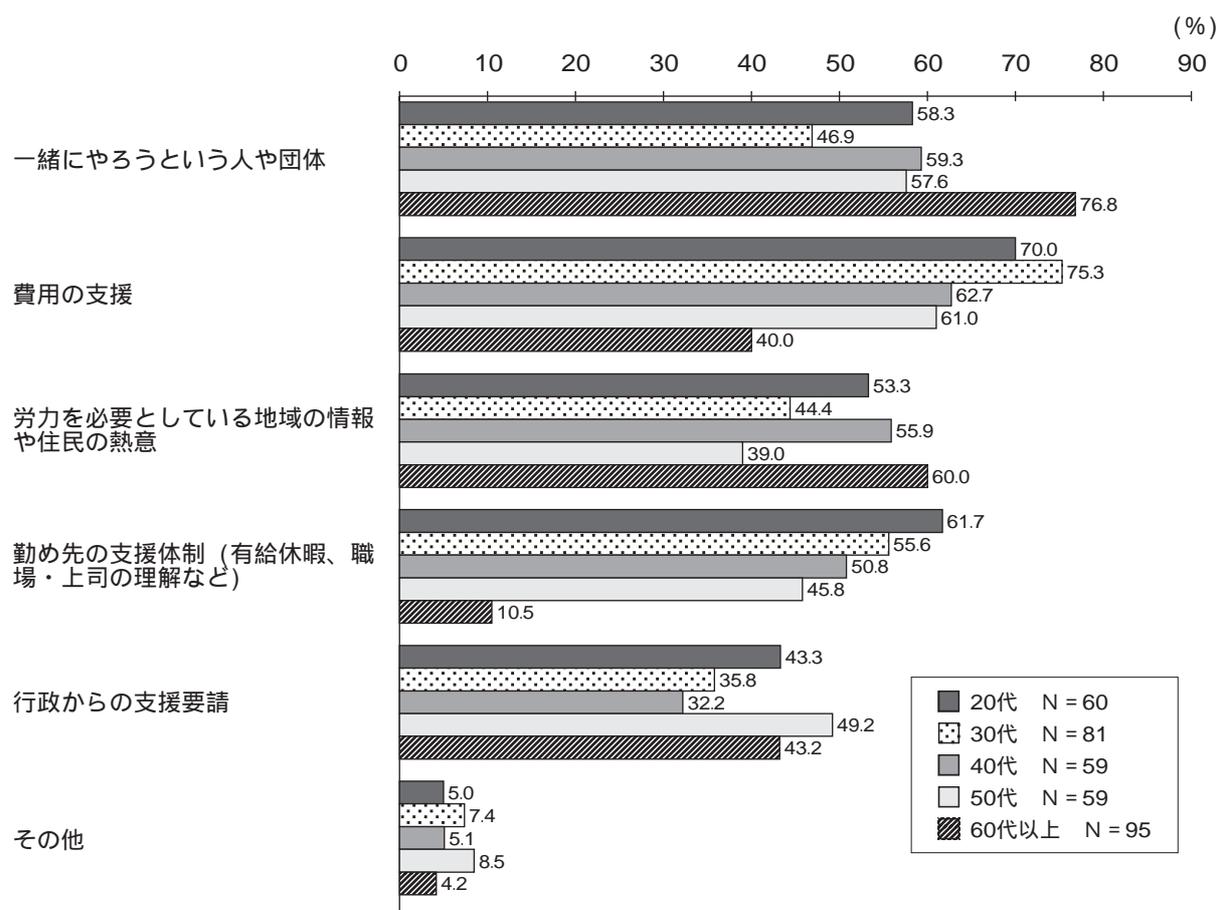
どのような条件がそろえば参加したい(参加してもよい)ですか。(回答はいくつでも)



問12で、“条件によっては参加する”と答え人に、どのような条件がそろえば参加するかを尋ねたところ、「一緒にやろうという人や団体」が60.7%、「費用の支援」が60.5%、「労力を必要としている地域の情報や住民の熱意」が51.1%、「勤め先の支援体制 (有給休暇、職場・上司の理解など)」が42.1%などとなっている。

年代別にみると、「一緒にやろうという人や団体」と答えた人の割合は60代以上で、「費用の支援」と答えた人の割合は30代で、それぞれ高くなっている。

(年代別)

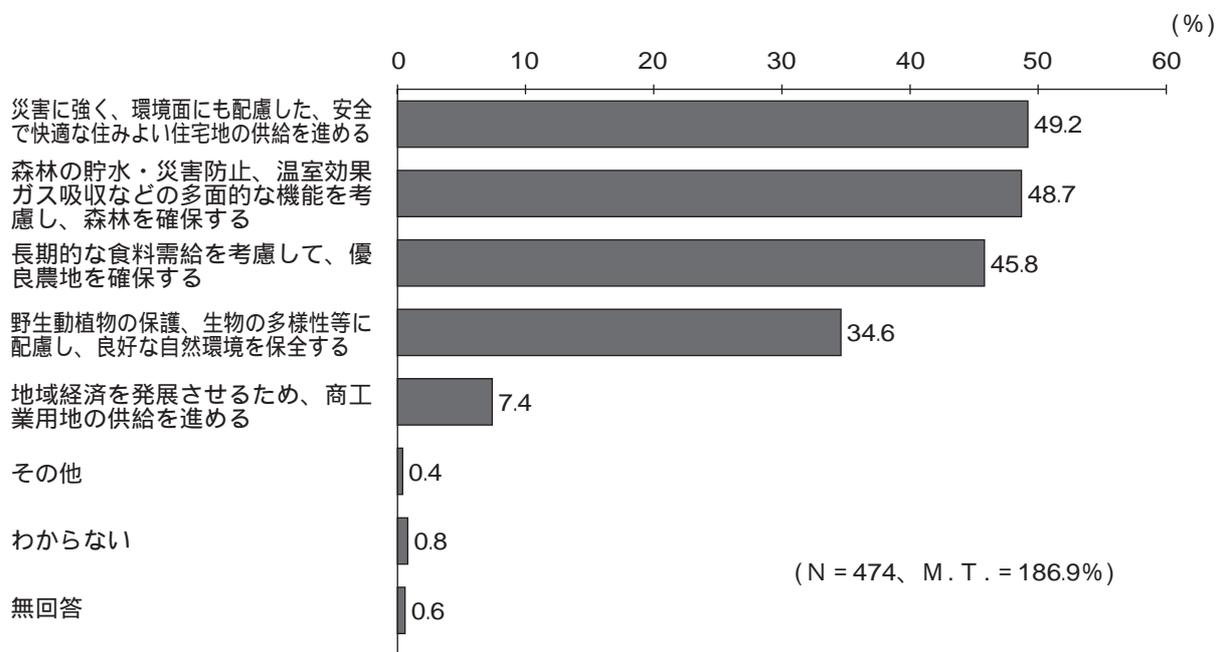


まちづくり計画への参加意向については、「積極的に参加したい」、「できるだけ参加したい」を合わせ70.9%、地域づくりへの取組みとしては、「荒れた森林や休耕地の管理」への参加意向については、「ある」、「条件によっては参加したい」、「条件によっては参加してもよい」を合わせ89.5%、「公園や道路の管理」については、「ある」、「条件によっては参加したい」、「条件によっては参加してもよい」を合わせ90.3%と、行政の計画や活動に対する参加意識は非常に高いものがあることがわかりました。

(地域振興部土地水資源課)

## 10 今後の土地利用

問14 本県における今後の土地利用を考えるにあたり、どのような土地利用が重要だと思いますか。(回答は2つ以内)

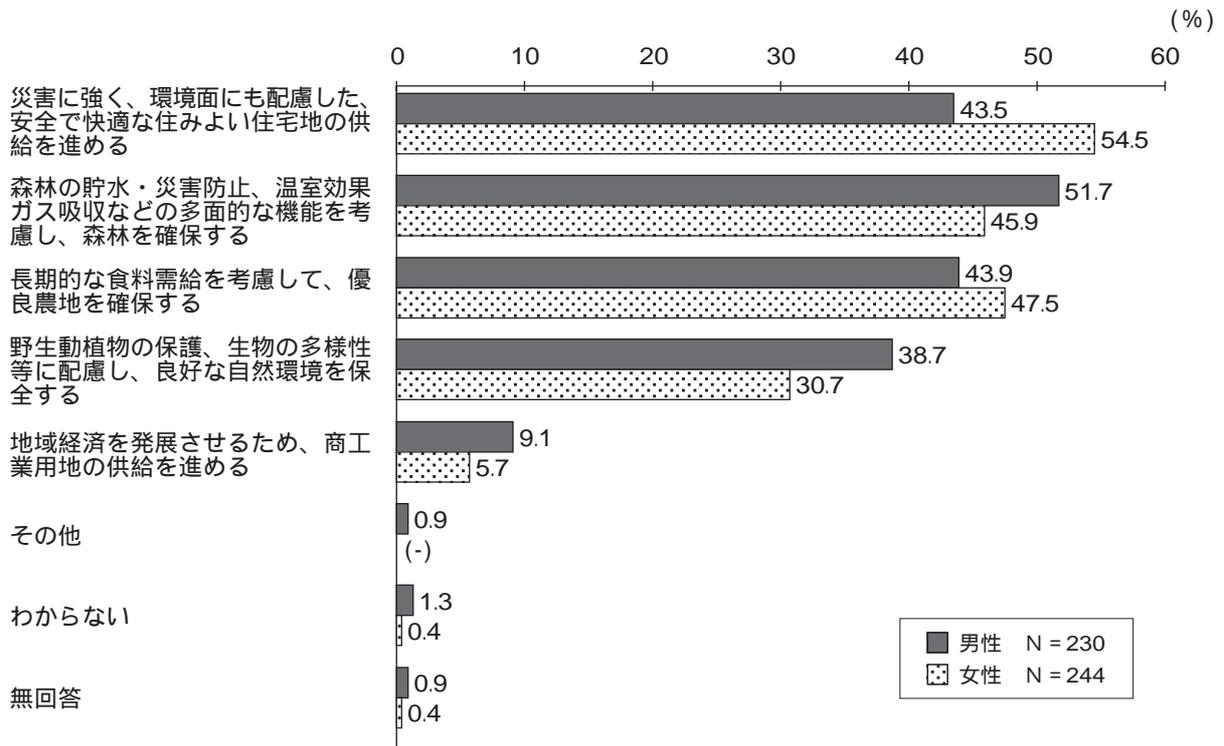


本県における今後の土地利用を考えるにあたり、どのような土地利用が重要かを尋ねたところ、「災害に強く、環境面にも配慮した、安全で快適な住みよい住宅地の供給を進める」が49.2%、「森林の貯水・災害防止、温室効果ガス吸収などの多面的な機能を考慮し、森林を確保する」が48.7%、「長期的な食料需給を考慮して、優良農地を確保する」が45.8%などとなっている。

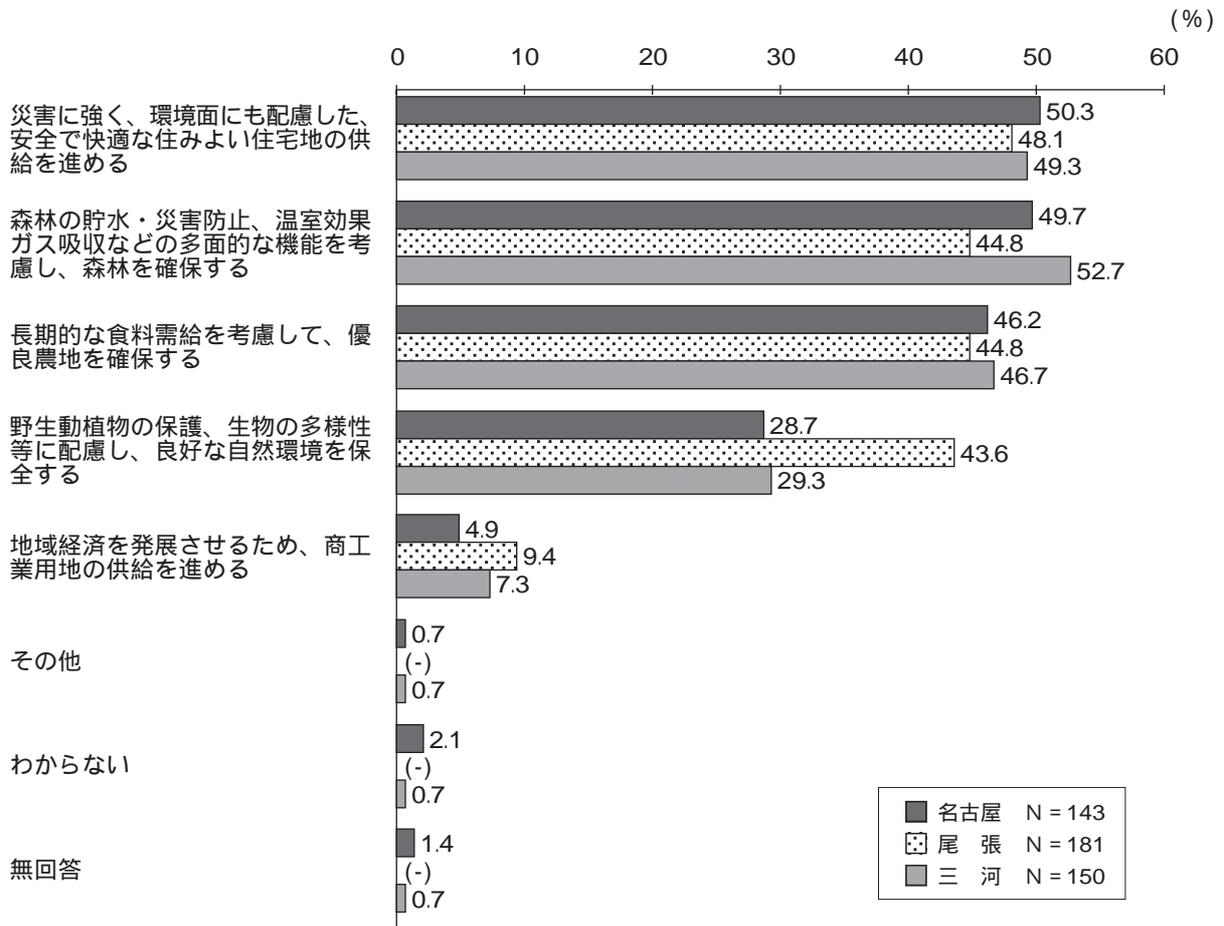
男女別にみると、「災害に強く、環境面にも配慮した、安全で快適な住みよい住宅地の供給を進める」と答えた人の割合は女性で高くなっている。

地域別にみると、尾張地域において「野生動植物の保護、生物多様性等に配慮し、良好な自然環境を保全する」が43.6%と他地域と比べ高くなっている。

(男女別)



(地域別)

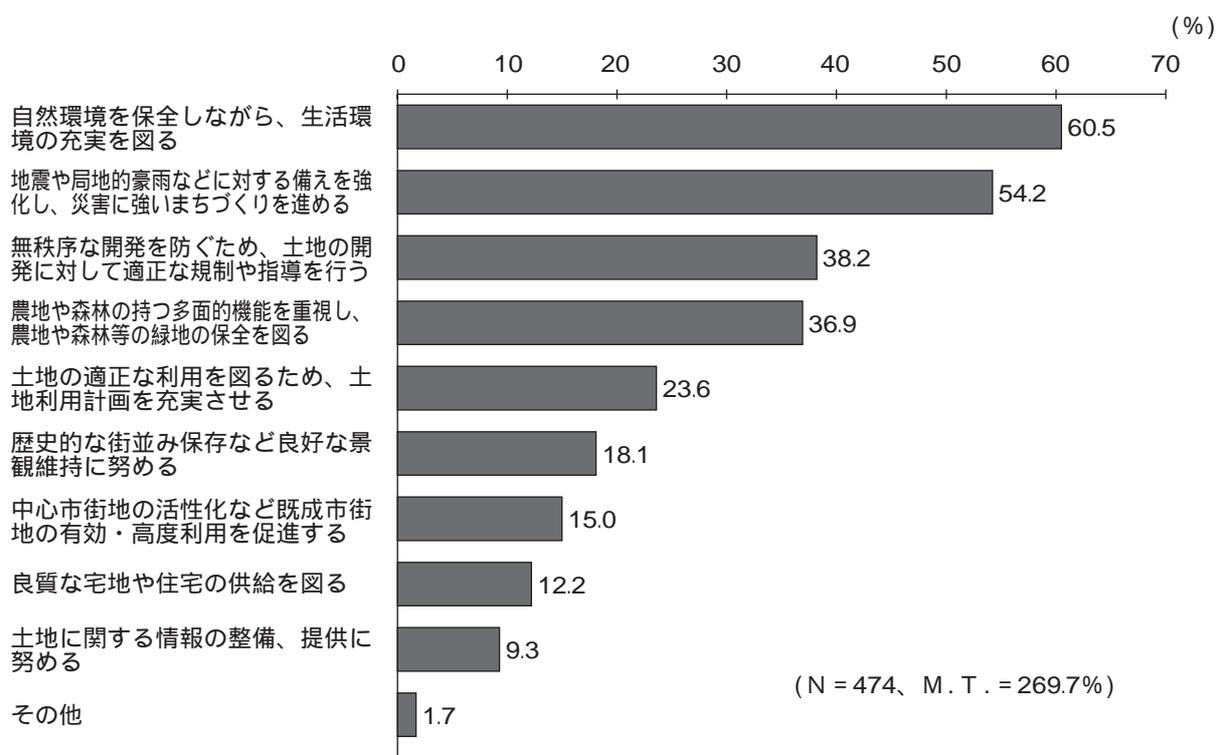


最近では、地球温暖化による気候変動に伴う地上気温の上昇や集中豪雨の増加、海面の上昇などが指摘（IPCC「第三次評価報告書」2001年、気象庁「異常気象レポート2005」）されており、豪雨による水害や土砂災害の発生、高潮災害の発生が懸念されています。

こうしたことから、今後の土地利用を考えるにあたっては、災害の増加や被害の甚大化、環境負荷の低減、自然環境の保全・再生等に対する十分な配慮が求められると考えられます。今回の調査結果からは、こうした県民意識の高さが感じられました。 (地域振興部土地水資源課)

問15 今後、県や市町村などの行政に力を入れて欲しい土地利用対策は何ですか。

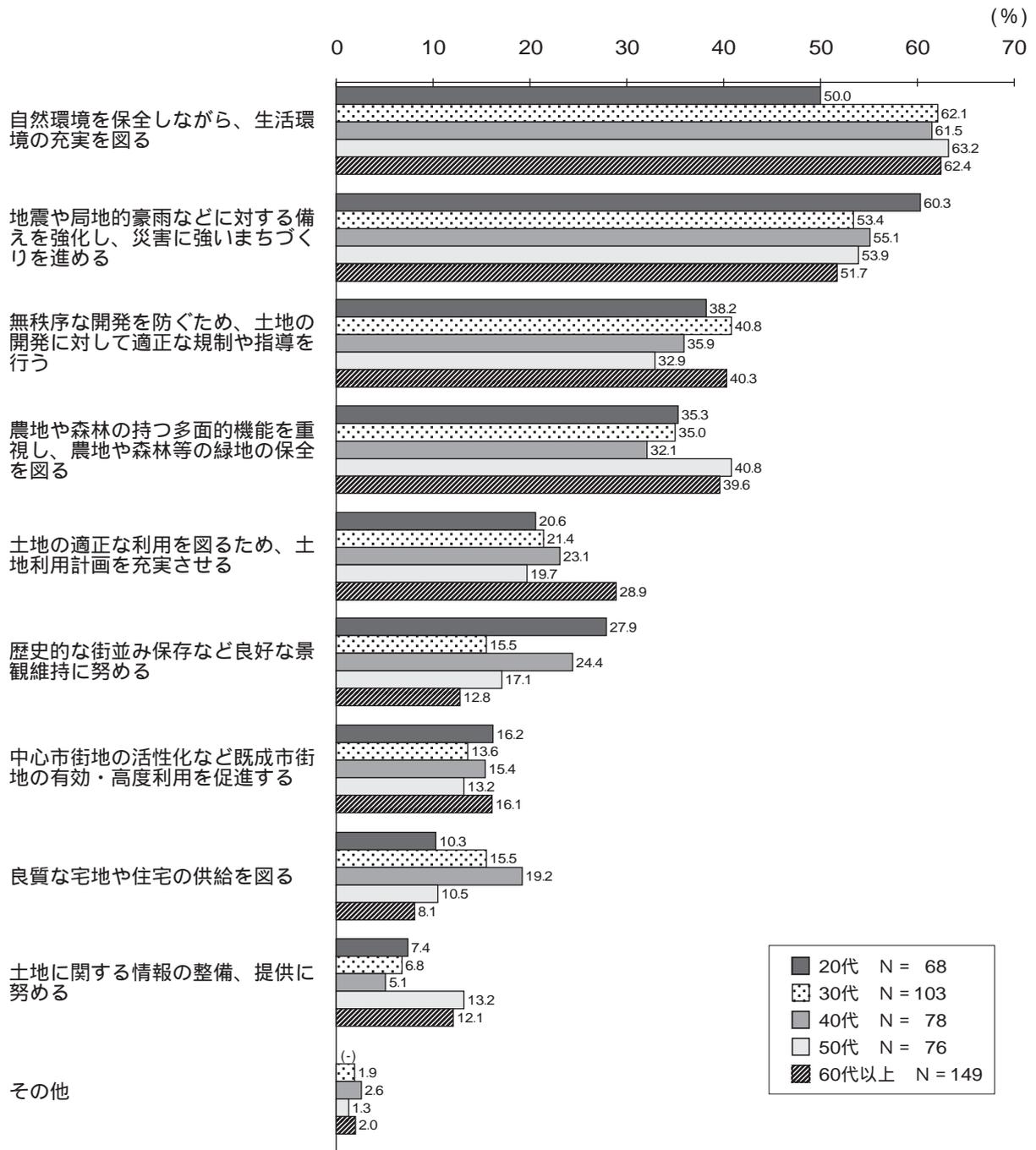
(回答は3つ以内)



今後、県や市町村などの行政に力を入れて欲しい土地利用対策は何かを尋ねたところ、「自然環境を保全しながら、生活環境の充実を図る」が60.5%、「地震や局地的豪雨などに対する備えを強化し、災害に強いまちづくりを進める」が54.2%、「無秩序な開発を防ぐため、土地の開発に対して適正な規制や指導を行う」が38.2%、「農地や森林の持つ多面的機能を重視し、農地や森林等の緑地の保全を図る」が36.9%などとなっている。

年代別にみると、30代から60代以上では「自然環境を保全しながら、生活環境の充実を図る」と答えた人の割合が最も高く、20代では「地震や局地的豪雨などに対する備えを強化し、災害に強いまちづくりを進める」と答えた人の割合が最も高くなっている。

(年代別)



この質問は、平成8年にも実施していますが、当時は、県全体で「無秩序な開発を防ぐため、土地の開発に対して適正な規制や指導を行う」が46.7%、「自然環境を保全しながら、生活環境の充実を図る」が44.7%となっていました。今回の調査では、「自然環境を保全しながら、生活環境の充実を図る」が60.5%と大きくポイントを伸ばし、また、「地震や局地的豪雨などに対する備えを強化し、災害に強いまちづくりを進める」が54.2%となりました。

少子高齢化の進展による人口減少社会の到来や経済・産業のさらなる成熟化により、土地に対する開発圧力は低下してきていると言われております。一方、自然環境の保全や防災に対する県民意識は高まってきており、今回の調査結果からも、そうした県民の皆様方の土地利用対策への関心の推移が読み取れるものと思われます。

愛知県としましても、こうした県民の皆様のご意見を踏まえつつ、土地利用をめぐる社会経済情勢の変化を適切に捉え、土地利用対策の推進に努めてまいりたいと考えております。

(地域振興部土地水資源課)

## 11 自由意見

土地利用対策について、ご意見・ご提案等があれば、自由にお書きください。

土地利用対策について、自由に意見を記入していただいたところ、205件の意見が寄せられた。それらを大別すると次表のとおりであり、以下、その意見の要旨をいくつか例示した。

項 目	件 数
(1) 「環境」に配慮した土地利用について	49
(2) 「防災」に配慮した土地利用について	10
(3) 「景観」に配慮した土地利用について	6
(4) 市街地における低未利用地の有効活用について	25
(5) 混在化の解消と計画的な土地利用について	12
(6) 農用地の保全と耕作放棄地対策について	26
(7) 土地利用計画のあり方について	19
(8) 土地利用規制のあり方について	27
(9) 土地利用施策に対する県民参加について	14
(10) その他	17
合 計	205

### (1) 「環境」に配慮した土地利用について

愛知県は、大都市圏としては森林の割合が多い。自然を残した土地利用を進めるべき。

荒れたままの森林や国土を絶対に次世代には残したくない。人口減少社会にもなり、今、対策をしっかりと考え、実行しなければ、より良い環境は残せない。開発から保全へと大きく方向転換をすべき時であり、県は、しっかりした方針を示し、リーダーシップをとるべき。愛知の森林が生き生きと緑と水を貯え、私たちの生活をいつまでも守ってくれるように願っている。

ゴルフ場などとして、使用しなくなった土地は森林に戻し、環境の整備を促進すべき。また、都市部の空き地は極力、緑化を推進し、住環境の改善を図るべき。

自然に配慮した公園などの整備が進んでいるが、大きな公園などでは昆虫の採取が禁止されている。業者による乱獲は規制する必要があると思うが、子供たちの遊びの一環での採取まで全面的に禁止することは、本当の意味で自然保護にはならないのではないかと。

食料自給率やヒートアイランド問題を考えると農地の開発は止めるべき。将来の人口減少を考えると農地や森林、里山を開発するのではなく、保全に力をいれるべき。

水資源確保の元となる自然環境を保全できるようにすべき。山間地域の荒廃により、都市部の人

たちの生活にも大きな影響が出てくる。

自然との共生を念頭に置いた土地利用対策を練るべき。主役は、いつの時代も次世代を担う子供たちである。

緑が多いほうが、空気も良いし、子供ものびのびと育つ。外で子供らしく思いっきり遊べる環境を整備、または保存して行かなければならない。都市と自然との調和のとれた街づくりをしていて欲しい。

水のあるところ、木のあるところは、心をなごませる。自然をなくさないような開発をお願いしたい。

地球温暖化防止のため、緑豊かな街にすべき。

土地利用においても、C O P 10の開催地にふさわしくなるよう、身近な自然環境の保全や生物多様性の確保に努めるべき。

開発、開発で残ったものは、荒れて何ともできない土地ばかり。今、人間にとって一番大切なのは、水と太陽と緑。

名古屋市栄のオアシス21には、空中庭園があり、都心でありながら、自然も感じられる。芝生や草木も手入れが行き届いており、土地利用の成功例だと思う。今後、新たに公共施設を建設する際は、屋上やちょっとしたベランダに緑を感じるスペースを作り、自然との共生を目指して欲しい。また、名古屋市近郊の空き地を利用して、貸し畑として活用したらどうか。地場野菜が見直されている今、小中学生と一緒に作物を育てるのも良い。

愛知県は、昭和20年代から40年代にかけて、内地材より安価な外材に依存してきたため、森林が乱開発されずに残っている。今後、手入れ不足の森林の再生をし、一層の森林保全に努めるべき。

山村地域では、人口が減少し、高齢化がすすんでいるため、荒れた田畑や森林が目立つようになってきた。林業の衰退が原因だが、大変残念なこと。平成21年4月にスタートする「あいち森と緑づくり税」が本当に有効に使われることを期待している。過去には、必要のない田んぼの区画整理で、作る側にも使いにくくなり、田んぼの状態が悪くなったことがある。本当に、税が豊かな森づくりに使われるよう、住民の声をしっかり聞いて欲しい。

## (2) 「防災」に配慮した土地利用について

災害に強い住環境の整備が必要。

治水面に配慮し、災害の起こりにくい土地利用整備を図るべき。

東海大地震に備えた都市づくりが必要。

土地利用を考える際には、地震や水害等の災害に対する備えが急務。避難マップや一時的な集結場所、ヘリポートの位置の選定等が重要。

自分の今、住んでいる所は、住宅が密集しており、その割に地震時の避難場所となる小学校や公園が小さいので、とても不安である。計画的な土地利用はできなかったのかと思う。

近年、ゲリラ豪雨が発生することが多く、山間部だけでなく、住宅地でも災害に備えた土地整備を進めることが必要。

最近、良く起きる都市における自然災害の原因として、安易な開発とそこに住む人の危機意識の欠如が挙げられる。昔からそこに住んでいるような人なら、決して家を建てないような土地が開発され宅地になっており、災害のよく発生する地域となっている。あきらかに危険な地域は、宅地開発を規制すべき。

### (3) 「景観」に配慮した土地利用について

都市景観施策は、住宅地もビジネス街も統一した色使いや高さ制限を設けて進めるべき。

町全体にもう少し統一感が欲しい。神戸などは、景観に配慮されていて素敵に感じる。

名古屋市は日本3大都市のわりに高層ビルが少ない。名駅から栄、大須まで、もっと一体感を持った街にして欲しい。

景観を守りながら、街が発展するような、有効な開発が必要。

欧州の国々のように歴史的な街並み保存や、良好な景観維持に力を注いで欲しい。経済大国から文化大国へ転換すべき時代に来ている。これからは、輸出立国では、発展途上国の追い上げもあり厳しくなる。長期的な視野に立って、観光立国を目指すべき。日本の四季の美しさ、自然の美しさ、豊かさにあこがれる外国人を多く知っている。今は宝の持ち腐れ。子供や孫の世代のためにも、住み良い街づくりが必要。

市街地において、古いビルや古い家の付近に新しい建物が建ったりして、結構、無秩序な状態となっている。通る度に、何とかならないかと思う。良好な景観維持を望む。

### (4) 市街地における低未利用地の有効活用について

中心部のシャッター通りの問題は深刻。公園、美術館、図書館などの公的施設の整備や大学や高校などと合わせた街づくりが必要ではないか。

これからは人口も減っていくので、大規模な住宅開発は必要ない。既存宅地の有効活用を検討すべき。街の中心部の未利用地は、県や市が買い取り、活用を検討することも必要。

町の整備から時が経ち、町も古くなり、また、住民も年寄りが多い町が増えている。古い町を再生して、若い人を呼び寄せる施策をすべき。

ニュータウンは造成後40年以上経ち、高層住宅の老朽化や戸建て住宅の減少などが見られるようになってきた。少子化に伴う小中学校の余剰分を災害時の避難用として転用するなど、何らかの対策を講じたらどうか。

経済が不安定な状況になり、商店街に人が集まらなくなって、空き店舗や空地などが多く見られ

るようになった。

最近は、景気悪化の影響か、空き店舗、空地が多い。夜道が暗く、用心が悪い。

県内の地方都市でも市街地の空洞化が目立つ。行政が主体となって、NPOやボランティアと協働して活性化を図るべき。

商業地のある市街地に空き地、空き家が目立つ。防犯や高齢化のために、空き家を放置しておくことは好ましくない。

実家の隣の土地は30年以上もほったらかしで、建っていた家も崩れ、雨が降ったり、風が吹くと屋根が落ちてくることもあった。先日、ようやく土地の整備をしたが、費用がかかることから、なかなかできなかった。行政は指導だけでなく、お金の援助をすることも必要ではないか。

昭和50年代頃まで、中心部は賑わっていたが、今では夜になると人通りも少なく、ゲームセンターが近くにあることもあって、少し治安が悪いように感じている。昔の思い出の場所が、このように変わってしまったことが残念でならない。空き店舗の利用について、県、市、ボランティア団体が連携して活用できる制度を運営できればと思う。

町の中心部に空き地や使われていない建物があつたり、市街化区域内に農地が点在しているのを解消するには、課税を強化した方が良い。東三河地域では、市街化区域でもこのような状況が多く見られる。町を活性化するためにも、土地が有効活用されるよう積極的に働きかけるべき。

子供の遊び場所になる空き地は、ある程度あつた方が良い。むしろ、空き地が少なすぎると思う。

## (5) 混在化の解消と計画的な土地利用について

住宅地から一步沿線へ行くと、風俗店やらパチンコ店やら子供によろしくない環境となっていることが多い。このような系統の店は区画を集約すべき。少なくとも住宅地や商店街との隣接は避けるべき。

昔、織物工場が多かったため、工業地区になっているが、今では、工場は無くなり住宅地になっている。用途地域を工業地区にしておく意味は無い。住居専用地区に変更することはできないのか。住宅地の真ん中に工場ができて生活環境が破壊される可能性もあり、住民も不安を抱えている。

準工業地区内の工場と住宅が混在する状態は、再考し改善すべき。

市街化調整区域において、農地、宅地、工業地、商業地と混在している。緑を多く残しておくためにも、規制をもっと厳しくしたほうが良い。

住宅地に点在する農地は、農作業がしづらだけでなく、生活環境上も好ましくない。土地の等価交換等、適切な措置を早急にとるべき。

自分の住んでいる地域は、宅地、農地、工業地、商業地があまりにも混在している。住宅地にふさわしいような環境について、もう少し配慮があつてよいと思う。

## (6) 農用地の保全と耕作放棄地対策について

日本の食料の安定供給を考える意味でも、農地の確保や農業従事者の育成と支援、農産物の生産地と消費地との間の輸送・交通手段の整備が必要。

日本のように食料を海外からの輸入に頼らざるを得ない場合、少しでも良い農地を確保すべき。高齢化社会により農業をやる労力は豊富にある。遊んでいる土地を有効利用して、食料自給率を高めるとともに、お年寄りの生きがいをも提供することができる。

日本は主食のコメさえも輸入している。フードマイレージという考え方もあり、自分の地域でとれたものを食べ、近場で鮮度の良い、生産者のわかるものを安心して食べられるよう遊休地を減らし、環境を整えると良い。

減反の原則廃止が言われているが、まだまだ荒れた休耕田が多い。市民菜園として行政が市民に貸し出す方法を考えてはどうか。

休耕農地は雑草が生え、防火上も良くない。一方、野菜を作ってみたい人はたくさんいる。農家の方も農地の貸出を望んでいる。休耕農地は、一般の市民に貸し出して有効活用できるようにすべき。

田舎でも耕作放棄地が目立つようになってきており、とても心配である。一度荒れた農地を元に戻すのは、とても大変なことだ。農地を耕作したい人に、行政が貸すなり、売るなりする方法を考えるべき。

耕作放棄地の増大は、国家にとっても大きな損失。行政で管理する仕組みを考究すべき。

## (7) 土地利用計画のあり方について

その時々のはやりに左右されず、長期的な視点に立った方針を立て、地道に施策を実施して欲しい。

土地利用対策は、長期的な視野を持つこと。何年か先の住民のための土地利用をも見据えて、未来の変化に対しても調整できるような方策を加えるべき。

普段の生活の中では、県や市町村がどのような土地利用計画を持っているのか触れる機会がない。最近、住宅の購入を考えているが、近隣には市街化調整区域が多く、条件に合わない人は住宅の購入ができないようである。広報などで積極的に土地利用計画などの施策を取り上げて欲しい。

我が市は、開発途上にあり、日一日と景観が変化している。計画に基づいた開発が必要ではないかと思う。

継続性のある施策が必要。思いつき、つまみ食いの計画は極力排除してもらいたい。

土地利用施策は、10年先、20年先ではなく、100年先を見越した施策を立てるべき。資金不足は年月の積み重ねでカバーできる。どんな町をつくりたいのか、住民が話し合うことが必要。

ヨーロッパのように住む地域、自然を残す地域、農業用地域と3つに分けた土地利用をすべき。

利便性と自然保護、一次産業の保護が同時に可能となる。

ゴネ得が良いような社会ではなく、多少の痛みを分かちあえたら、住み良い街がうまれる。地域に行政が密着し、高齢社会にマッチした都市構成が必要。

## (8) 土地利用規制のあり方について

自分の土地だからといって100%自由でいいとは思わない。行政の指針があれば、環境に悪影響が出たり、景観が損なわれたりすることを防げるのではないかと思う。

土地利用には多くの規制があるため、有効活用を妨げている。規制緩和が必要。

土地利用規制については、多くの法律や条例があるが、抜け穴が多く、目標どおりの運用ができていない。限りある土地の有効活用のため、抜け穴の無い厳しい規制が必要。

市街化区域と市街化調整区域に区分されてから、かなりの年月がたつ。市街化調整区域でも住宅地として相応しいところがあるが、市街化区域でないため、家を建てることができない。区域指定の見直しや弾力的な運用ができないか検討していただきたい。

## (9) 土地利用施策に対する県民参加について

県民を巻き込んだ里山保全を進めるべき。ボランティアでの参加者希望者は充分にいると思う。

農地や森林の保全や有効活用に際して、高齢者が役に立つ場があれば良いと思う。高齢者の中でもボランティアとしてやれる人は結構いると思う。

愛・地球博のように、多数の県民が計画段階から参加できるようになれば良い。

街づくりには、住民の連帯意識が大切。

## (10) その他

遊休地には高い保有税をかけ、また、土地利用の状況に則して、譲渡所得や事業所得を低率にするなど、税制による土地利用の適正化を促すべき。

地籍調査を県全体にひろめるべき。正確な土地の位置や面積を測量し、正確な境界線を確認すべき。それにより土地の流動化が進み、不動産価格を押し上げ、県の財政も潤す効果がある。

私の住んでいる地域では、人口が減少しているのに、区画整理で土地を売り出し、新しい住宅ができています。また、県営住宅の中の駐車場が足りないといって、公園を2つも潰して駐車場をつくったのに、県営住宅の駐車場には空きがある。何か理由はあるのかもしれないが、おかしいのではないかと。

### Ⅲ 質問と回答

#### 1 地域の土地利用状況

問1 あなたが住んでいる地域の土地利用状況について、どのように思いますか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	474	230	244	143	181	150	68	103	78	76	149
整然としている	13.7	13.5	13.9	21.7	9.9	10.7	23.5	10.7	12.8	17.1	10.1
どちらかと言えば整然としている	45.8	44.4	47.1	51.7	42.0	44.6	54.4	46.6	48.7	35.5	45.0
どちらかと言えば整然としていない	21.5	22.6	20.5	14.0	26.5	22.7	8.8	23.3	11.6	25.0	29.5
整然としていない	12.2	16.5	8.2	5.6	16.0	14.0	8.8	9.7	15.4	15.8	12.1
わからない	6.6	3.0	9.9	7.0	5.0	8.0	3.0	9.7	11.5	6.6	3.3
無回答	0.2	(-)	0.4	(-)	0.6	(-)	1.5	(-)	(-)	(-)	(-)

問2 あなたが住んでいる市区町村の土地利用状況について、問題を感じていることは何ですか。

(回答はいくつでも)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	474	230	244	143	181	150	68	103	78	76	149
まちの中心部で空き地や使われていない建物が目立つ	29.5	33.0	26.2	23.1	26.5	39.3	23.5	24.3	38.5	25.0	33.6
耕作を放棄した農地が存在している	31.6	31.3	32.0	9.8	40.3	42.0	20.6	16.5	23.1	31.6	51.7
道路や公園、緑地が利用者数に比べ不足している	29.1	30.9	27.5	35.0	26.5	26.7	25.0	39.8	28.2	28.9	24.2
密集市街地など、防災上改善が必要な地域が残っている	26.6	30.4	23.0	30.8	22.7	27.3	25.0	21.4	25.6	27.6	30.9
住宅地と工場が混在している	22.2	24.3	20.1	21.7	22.7	22.0	22.1	25.2	17.9	23.7	21.5
森林の管理状況が低下している	14.8	17.0	12.7	4.9	11.0	28.7	11.8	8.7	19.2	11.8	19.5
市街化区域内に農地が点在している	15.6	17.8	13.5	8.4	21.0	16.0	8.8	10.7	12.8	13.2	24.8
郊外の優良農地で虫食いのなミニ開発が行われている	12.9	14.3	11.5	7.7	15.5	14.7	8.8	10.7	12.8	7.9	18.8
山間部で虫食いのなミニ開発が行われている	6.8	9.1	4.5	3.5	7.2	9.3	4.4	6.8	12.8	5.3	5.4
その他	7.6	6.1	9.0	10.5	6.6	6.0	5.9	10.7	3.8	11.8	6.0
特に問題は感じていない	15.4	13.5	17.2	23.1	12.2	12.0	20.6	13.6	17.9	18.4	11.4
わからない	3.6	2.2	4.9	4.2	3.3	3.3	5.9	5.8	6.4	2.6	(-)
無回答	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

## 2 市街地での低未利用地のあり方

問3 近年、住宅地や商業地などの市街地において、虫食い状の空き地や空き家、空き店舗が増えていると言われてしています。

このことについて、市街地での低未利用地（利用されていない土地、又は土地の立地条件に対して利用形態が社会的に必ずしも適切でないもの）について、あなたはどのようにすれば良いと思いますか。（回答は1つ）

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	474	230	244	143	181	150	68	103	78	76	149
現在の程度ならこのままで良い	9.9	11.7	8.2	11.2	8.3	10.7	8.8	9.7	10.3	9.2	10.7
利用するかしないかは、所有者自身の判断による	12.7	13.9	11.5	14.7	11.6	12.0	13.2	11.7	14.1	13.2	12.1
所有者自身による利用を促す	8.6	7.0	10.2	10.5	9.4	6.0	7.4	3.9	7.7	9.2	12.8
第三者による利用を促す	24.5	26.1	23.0	18.9	32.6	20.0	23.5	27.2	28.2	17.1	24.8
県や市町村などが買い取るなどして、公的な利用を促す	17.3	16.1	18.4	12.6	17.7	21.3	17.7	15.5	11.5	15.8	22.2
災害時の避難場所や緑地空間などとして、積極的に活用する	22.2	21.7	22.5	26.5	17.1	24.0	26.5	24.3	20.5	28.9	16.1
その他	2.9	3.1	2.9	3.5	1.7	4.0	2.9	5.8	3.8	1.3	1.3
わからない	1.9	0.4	3.3	2.1	1.6	2.0	(-)	1.9	3.9	5.3	(-)
無回答	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

## 3 土地利用の混在化

問4 市街化を抑制することとなっている地域（市街化調整区域）において、開発が進んだ結果、農地や住宅地、工業用地等の事業用地が混在化し、農業を営む上での支障や道路などの生活関連施設の未整備が問題となっています。このことについて、あなたはどのように思いますか。（回答は1つ）

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	474	230	244	143	181	150	68	103	78	76	149
それぞれの区域を見直して、計画的な土地利用を促すべき	61.6	62.2	61.1	60.8	59.1	65.3	58.8	63.1	59.0	63.2	62.4
農地、住宅地、工業用地等の混在化を食い止めるため、規制を強化し開発を抑制すべき	22.6	24.3	20.9	22.4	24.3	20.7	20.6	24.3	21.8	18.4	24.8
現在のままで良い	8.2	8.7	7.8	9.1	9.4	6.0	11.8	2.0	10.2	7.9	10.1
その他	2.1	2.2	2.0	3.5	2.8	(-)	2.9	1.9	2.6	3.9	0.7
わからない	5.3	2.6	7.8	4.2	3.9	8.0	5.9	8.7	5.1	6.6	2.0
無回答	0.2	(-)	0.4	(-)	0.5	(-)	(-)	(-)	1.3	(-)	(-)

#### 4 土地利用規制

問5 農地や森林を開発し利用しようとする場合、土地の開発や利用に対して、様々な法律や条例により規制がかけられていることがあります。これらの土地利用規制について、あなたはどのように思いますか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	474	230	244	143	181	150	68	103	78	76	149
計画的な土地利用を促すため、行政による規制は必要であり、強化すべき	20.2	24.4	16.4	18.2	22.1	20.0	16.2	22.3	26.9	21.1	16.8
計画的な土地利用を促すため、ある程度の規制はやむを得ないが、規制ではなく、土地利用計画などの他の誘導方法を考えるべき	53.6	55.2	52.1	56.6	50.8	54.0	44.1	51.5	53.9	50.0	61.1
自然環境の保全など、必要最小限の規制にとどめるべき	17.1	12.2	21.7	16.1	17.7	17.4	22.1	19.4	9.0	18.4	16.8
必要性の低い規制が多すぎるので、規制緩和をすすめるべき	3.8	4.8	2.9	2.1	5.5	3.3	7.4	4.8	3.8	3.9	1.3
その他	1.7	1.3	2.0	2.1	1.7	1.3	2.9	1.0	1.3	1.3	2.0
わからない	3.2	1.7	4.5	4.2	1.7	4.0	7.3	1.0	3.8	5.3	1.3
無回答	0.4	0.4	0.4	0.7	0.5	(-)	(-)	(-)	1.3	(-)	0.7

#### 5 環境に配慮した土地利用

問6 土地の利用にあたっては、快適な環境づくりに配慮する必要がありますが、今後、どのようなことに配慮したら良いと思いますか。(回答は2つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	474	230	244	143	181	150	68	103	78	76	149
河川等の安全性を確保しつつ、潤いのある水辺環境を整備する	39.5	38.3	40.6	30.1	41.4	46.0	39.7	35.9	38.5	38.2	43.0
都市や都市の周辺で公園緑地などを整備する	35.7	38.7	32.8	45.5	30.9	32.0	30.9	42.7	38.5	28.9	34.9
自然とのふれあいの場としての森林の保全に努める	34.2	31.7	36.5	32.2	35.4	34.7	32.4	40.8	30.8	34.2	32.2
道路緑化を推進し、沿道環境を充実させる	21.5	21.3	21.7	22.4	21.5	20.7	17.6	14.6	16.7	23.7	29.5
緑の空間として、市街地内農地を保全する	15.0	13.5	16.4	18.2	15.5	11.3	19.1	23.3	9.0	13.2	11.4
都市においてビルの屋上緑化を進める	15.6	17.4	13.9	20.3	14.9	12.0	19.1	18.4	16.7	13.2	12.8
住宅地周辺の里山を保全する	23.6	23.0	24.2	18.9	26.5	24.7	20.6	15.5	26.9	30.3	25.5
その他	1.5	2.6	0.4	2.1	0.6	2.0	(-)	1.0	3.8	1.3	1.3
わからない	1.9	1.7	2.0	1.4	1.7	2.7	1.5	1.0	3.8	3.9	0.7
無回答	0.2	0.4	(-)	0.7	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	0.7

## 6 景観の保全

問7 あなたの身の回りで保全したい景観はありますか。

それは、どのような景観ですか。(回答はいくつでも)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	474	230	244	143	181	150	68	103	78	76	149
山なみや森林	45.4	50.4	40.6	42.7	42.0	52.0	54.4	57.3	37.2	48.7	35.6
農地や田園風景	53.8	54.8	52.9	42.0	61.9	55.3	54.4	51.5	52.6	52.6	56.4
歴史的な建造物	52.5	53.5	51.6	55.9	54.7	46.7	58.8	62.1	61.5	46.1	41.6
調和のとれた住宅地	37.1	37.4	36.9	48.3	32.0	32.7	33.8	28.2	32.1	47.4	42.3
統一感のある商業地や都市景観	29.7	33.5	26.2	37.1	23.8	30.0	27.9	19.4	29.5	43.4	30.9
その他	2.7	2.6	2.9	2.8	3.3	2.0	(-)	3.9	2.6	1.3	4.0
保全したいと思う景観はない	7.6	9.6	5.7	8.4	8.3	6.0	2.9	7.8	6.4	5.3	11.4
無回答	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

## 7 都市基盤の整備

問8 環境に配慮した土地利用の推進、優れた景観の維持、また、市街地における都市機能の高度化によるコンパクトなまちづくりの推進には、道路、公園等の都市基盤の整備が欠かせません。

一方、県や市町村の財政状況は、決して余裕のある状況ではありません。こうした中、都市基盤の整備の進め方について、あなたはどのように思われますか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	474	230	244	143	181	150	68	103	78	76	149
良好な都市環境等を整備するため、他の施策に優先して基盤整備を進めるべき	17.1	20.0	14.3	16.8	20.5	13.3	19.1	17.5	16.7	15.8	16.8
中心市街地など、優先して基盤整備を図る必要のある地域を限定し、計画的な整備を進めるべき	42.0	44.3	39.8	42.6	40.9	42.7	42.6	38.8	35.9	43.4	46.3
人口減少社会の到来などにより、住宅地や商業地など、都市的土地利用に対する需要が減少するため、全体的に基盤整備を減らすべき	27.2	25.7	28.7	27.3	28.7	25.4	23.5	27.2	30.8	22.4	29.5
その他	5.9	4.3	7.4	6.3	4.4	7.3	7.4	6.8	5.1	6.6	4.7
わからない	7.8	5.7	9.8	7.0	5.5	11.3	7.4	9.7	11.5	11.8	2.7
無回答	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

## 8 まちづくり計画への参加

問9 よりよい「まちづくり」を行うためには、土地利用のあり方などを巡る計画づくりの段階から地域住民の参画を進めることが大切です。

あなたが住んでいる地域において、「まちづくり」に関する計画づくりが行われるとしたら、こうした計画づくりに参画したいと思いますか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	474	230	244	143	181	150	68	103	78	76	149
積極的に参加したい	14.1	20.0	8.6	15.4	13.3	14.0	14.7	8.7	10.3	10.5	21.5
できるだけ参加したい	56.8	54.8	58.6	57.3	61.9	50.0	47.1	58.3	62.8	59.2	55.7
あまり参加したくない	11.4	10.9	11.9	9.8	13.3	10.7	14.7	11.6	6.4	9.2	13.4
参加したくない	3.4	4.3	2.4	4.2	2.2	4.0	2.9	4.9	3.8	2.6	2.7
その他	2.7	2.2	3.3	1.4	1.6	5.3	4.4	4.9	2.6	2.7	0.7
わからない	11.6	7.8	15.2	11.9	7.7	16.0	16.2	11.6	14.1	15.8	6.0
無回答	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

## 9 地域づくりへの取組み

問10 近年、荒れた森林や休耕地の管理、緑あふれる住宅地づくりなど、地域の住民が主体となって、国土をより良い状態で次世代へ引継ごうという活動が数多く見られるようになってきました。

そこで、お伺いします。あなたは、「荒れた森林や休耕地の管理」について、地域に暮らす住民として、これらの地域づくりに参加する意向はありますか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	474	230	244	143	181	150	68	103	78	76	149
ある	12.2	16.5	8.2	11.2	11.0	14.7	7.3	9.7	12.8	9.2	17.4
条件によっては参加したい	35.7	37.8	33.6	33.6	37.0	36.0	41.2	38.8	42.3	27.6	31.5
条件によっては参加してもよい	41.6	35.7	47.1	43.3	42.0	39.3	47.1	37.9	34.6	47.4	42.3
参加する気はない	10.1	10.0	10.3	11.2	9.4	10.0	4.4	13.6	10.3	14.5	8.1
無回答	0.4	(-)	0.8	0.7	0.6	(-)	(-)	(-)	(-)	1.3	0.7

問11 問10で、「2 条件によっては参加したい」または「3 条件によっては参加してもよい」とお答えの方にお伺いします。

どのような条件がそろえば参加したい（参加してもよい）ですか。（回答はいくつでも）

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	366	169	197	110	143	113	60	79	60	57	110
費用の支援	59.3	65.1	54.3	61.8	58.7	57.5	65.0	79.7	61.7	63.2	38.2
勤め先の支援体制（有給休暇、職場・上司の理解など）	42.6	54.4	32.5	40.0	46.9	39.8	65.0	60.8	56.7	43.9	9.1
労力を必要としている地域の情報や住民の熱意	48.6	46.2	50.8	52.7	46.2	47.8	53.3	35.4	48.3	45.6	57.3
一緒にやろうという人や団体	59.3	57.4	60.9	55.5	55.2	68.1	61.7	39.2	61.7	59.6	70.9
行政からの支援要請	40.2	38.5	41.6	44.5	37.8	38.9	40.0	34.2	35.0	43.9	45.5
その他	5.2	1.2	8.6	5.5	4.9	5.3	3.3	7.6	3.3	7.0	4.5
無回答	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

問12 問10と同じ主旨の質問です。

近年、地域の公園や道路の管理など、地域の住民が主体となって、緑あふれる快適な住宅地づくりを進めていこうといった活動が数多く見られるようになってきました。

そこで、お伺いします。あなたは、「公園や道路の管理」について、地域に暮らす住民として、これらの地域づくりに参加する意向はありますか。（回答は1つ）

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	474	230	244	143	181	150	68	103	78	76	149
ある	15.6	19.1	12.3	11.9	15.5	19.3	5.9	10.7	15.4	9.2	26.8
条件によっては参加したい	33.1	33.9	32.4	35.7	32.6	31.3	36.7	38.8	35.9	25.0	30.2
条件によっては参加してもよい	41.6	37.0	45.9	41.2	43.1	40.0	51.5	39.8	39.7	52.7	33.6
参加する気はない	8.6	9.1	8.2	9.8	7.7	8.7	5.9	9.7	7.7	10.5	8.7
無回答	1.1	0.9	1.2	1.4	1.1	0.7	(-)	1.0	1.3	2.6	0.7

問13 問12で、「2条件によっては参加したい」または「3条件によっては参加してもよい」とお答えの方にお伺いします。

どのような条件がそろえば参加したい(参加してもよい)ですか。(回答はいくつでも)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	354	163	191	110	137	107	60	81	59	59	95
費用の支援	60.5	65.0	56.5	62.7	59.1	59.8	70.0	75.3	62.7	61.0	40.0
勤め先の支援体制(有給休暇、職場・上司の理解など)	42.1	51.5	34.0	41.8	44.5	39.3	61.7	55.6	50.8	45.8	10.5
労力を必要としている地域の情報や住民の熱意	51.1	49.7	52.4	56.4	49.6	47.7	53.3	44.4	55.9	39.0	60.0
一緒にやろうという人や団体	60.7	56.4	64.4	58.2	59.9	64.5	58.3	46.9	59.3	57.6	76.8
行政からの支援要請	40.7	40.5	40.8	41.8	42.3	37.4	43.3	35.8	32.2	49.2	43.2
その他	5.9	3.1	8.4	6.4	4.4	7.5	5.0	7.4	5.1	8.5	4.2
無回答	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

## 10 今後の土地利用

問14 本県における今後の土地利用を考えるにあたり、どのような土地利用が重要だと思いますか。

(回答は2つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	474	230	244	143	181	150	68	103	78	76	149
森林の貯水・災害防止、温室効果ガス吸収などの多面的な機能を考慮し、森林を確保する	48.7	51.7	45.9	49.7	44.8	52.7	38.2	52.4	42.3	53.9	51.7
野生動植物の保護、生物の多様性等に配慮し、良好な自然環境を保全する	34.6	38.7	30.7	28.7	43.6	29.3	38.2	38.8	39.7	28.9	30.2
災害に強く、環境面にも配慮した、安全で快適な住みよい住宅地の供給を進める	49.2	43.5	54.5	50.3	48.1	49.3	51.5	43.7	48.7	51.3	51.0
長期的な食料需給を考慮して、優良農地を確保する	45.8	43.9	47.5	46.2	44.8	46.7	45.6	39.8	41.0	48.7	51.0
地域経済を発展させるため、商工業用地の供給を進める	7.4	9.1	5.7	4.9	9.4	7.3	13.2	8.7	5.1	6.6	5.4
その他	0.4	0.9	(-)	0.7	(-)	0.7	1.5	(-)	(-)	(-)	0.7
わからない	0.8	1.3	0.4	2.1	(-)	0.7	(-)	1.9	2.6	(-)	(-)
無回答	0.6	0.9	0.4	1.4	(-)	0.7	(-)	1.0	(-)	(-)	1.3

問15 今後、県や市町村などの行政に力を入れて欲しい土地利用対策は何ですか。(回答は3つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代 以上
総数	474	230	244	143	181	150	68	103	78	76	149
自然環境を保全しながら、生活環境の充実を図る	60.5	63.9	57.4	61.5	58.6	62.0	50.0	62.1	61.5	63.2	62.4
無秩序な開発を防ぐため、土地の開発に対して適正な規制や指導を行う	38.2	36.5	39.8	37.1	39.2	38.0	38.2	40.8	35.9	32.9	40.3
土地の適正な利用を図るため、土地利用計画を充実させる	23.6	25.7	21.7	23.1	26.5	20.7	20.6	21.4	23.1	19.7	28.9
良質な宅地や住宅の供給を図る	12.2	13.0	11.5	10.5	11.6	14.7	10.3	15.5	19.2	10.5	8.1
土地に関する情報の整備、提供に努める	9.3	9.6	9.0	7.7	10.5	9.3	7.4	6.8	5.1	13.2	12.1
中心市街地の活性化など既成市街地の有効・高度利用を促進する	15.0	20.9	9.4	16.8	13.3	15.3	16.2	13.6	15.4	13.2	16.1
地震や局地的豪雨などに対する備えを強化し、災害に強いまちづくりを進める	54.2	46.1	61.9	49.0	57.5	55.3	60.3	53.4	55.1	53.9	51.7
農地や森林の持つ多面的機能を重視し、農地や森林等の緑地の保全を図る	36.9	37.4	36.5	31.5	38.7	40.0	35.3	35.0	32.1	40.8	39.6
歴史的な街並み保存など良好な景観維持に努める	18.1	22.6	13.9	23.1	19.3	12.0	27.9	15.5	24.4	17.1	12.8
その他	1.7	1.7	1.6	1.4	1.7	2.0	(-)	1.9	2.6	1.3	2.0
無回答	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

平成20年度第5回県政モニターアンケート報告書

「 土 地 利 用 対 策 」  
平 成 2 1 年 3 月 発 行  
愛 知 県 知 事 政 策 局 広 報 広 聴 課  
名 古 屋 市 中 区 三 の 丸 三 丁 目 1 番 2 号  
電 話 ( 0 5 2 ) 9 5 4 - 6 1 6 9 ( ダ イ ヤ ル イ ン )

この冊子は、再生紙を使用しています。

